

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
物理学		作業療法科/1年	2022/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	佐倉正樹(実務経験者)
授業の概要				
物理学とはなにか解説した後、リハビリの分野で特に理解が必要となる「ちから」について講義8回進めていく。 後半は試験にむけて問題を解きながら理解度を確認していく 【実務経験】高校勤務				
授業終了時の到達目標				
「ちから」について理解する 「てこ」について理解する 物理分野の国家試験問題に対応できる				
回	テーマ	内容		
1	物理学で何を学ぶか	概論		
2	力の表し方、重力	スカラーとベクトル 力の単位、力の3要素		
3	力のつり合いと作用・反作用①	重力、重心、力のつり合い		
4	力のつり合いと作用・反作用②	つり合いの2力と作用・反作用		
5	いろいろな力、 $F=ma$ 、ベクトルの足し算	重力、張力、弾性力、垂直抗力、摩擦力、浮力、揚力、アルキメデスの原理		
6	力の合成・分解①	$F=ma$ を用いた運動計算の練習		
7	力の合成・分解②	カベクトルの合成・分解と練習		
8	てこの種類と原理①	てこの原理と種類1		
9	てこの種類と原理②	てこの原理と種類2		
10	力のモーメント	力のモーメントの練習問題		
11	力のモーメントと関節運動①	人体の関節における第1のてこ		
12	力のモーメントと関節運動②	人体の関節における第2、第3のてこ		
13	重力加速度	重力加速度の練習問題		
14	問題演習①	国家試験問題		
15	問題演習②	国家試験問題		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
配布資料		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
生物学		作業療法科/1年	2022/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	福田保(実務経験有)
授業の概要				
生物学から生命現象を理解することは、生物界の一員である人間を理解する上で大変重要である。本講義では生物の最小単位である細胞から講義を進め、生体内の化学反応、分子遺伝学について講義した後、生物の各器官系について順に講義していく。【実務経験】高校勤務				
授業終了時の到達目標				
細胞の構造、働きを理解する。 分子遺伝学を理解する。 生物の各器官系の構造、働きを理解する。				
回	テーマ	内容		
1	生命体のつくりとはたらき	生物の進化、生物の共通性、顕微鏡の歴史		
2	顕微鏡と細胞	分解能、細胞の構造1		
3	細胞の化学成分	細胞の構造2、細胞の成分		
4	体内の化学反応	代謝、確認テスト、酵素		
5	光合成と呼吸	光合成と呼吸		
6	細胞の増殖	細胞分裂		
7	ATPの生合成のまとめ	確認テスト、染色体		
8	遺伝情報の担い手	遺伝学の歴史1		
9	DNA複製・タンパク質の合成	遺伝学の歴史2		
10	ヒトの遺伝・変異	ヒトの遺伝学		
11	遺伝のまとめ	確認テスト、ホメオスタシス		
12	個体の調整1	呼吸系、消化系		
13	個体の調整2	循環系、免疫系1		
14	個体の調整3	免疫系2、神経系		
15	個体の調整4	内分泌系		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
「系統看護学講座 生物学」高畑 雅一 他 著 医学書院		期末試験 課題・レポート	80.0% 20.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
情報リテラシーI (入門)		作業療法科/1年	2022/前期	講義 (一部同時双方向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(15時間)	必須	木下(実務経験あり)
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> ・講義と演習を通じて、ネット社会で情報を安全に使いこなすための基礎知識を学ぶ。 ・Word・Excel・PowerPointの基礎的な知識・操作技術を学ぶ。 ・PC操作やタッチタイピングに慣れる。 【実務経験】 病院勤務				
授業終了時の到達目標				
情報化社会のモラルやセキュリティ対策などについて理解する。 PCの基本的な操作技術を獲得する。 Wordの基本的操作を理解し、文章やレポートを作成できる。 Excelの基本的操作を理解し、表・グラフを作成できる。 PowerPointの基本操作を理解し、資料を作成できる。				
回	テーマ	内容		
1	情報リテラシーとは	情報化社会のモラルとセキュリティ		
2	情報を安全に使いこなすために①	個人情報や著作権の取り扱い		
3	情報を安全に使いこなすために②	Webやメールによるコミュニケーション モバイル機器の活用と管理		
4	基本的なPC操作とタイピング	PC操作の基本(Web授業に要する操作含む) ブラインドタッチの基礎		
5	Wordの活用①	レポートの作成		
6	Wordの活用②	Wordの基本操作		
7	Excleの活用	Excleの基本操作		
8	Power Pointの活用	Power Pointの基本操作		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
情報リテラシー入門編:FOM出版		確認テスト 課題・レポート	40.0% 60.0%	各自ノートパソコンを持参すること。 (*事前に満充電にしておくこと) 公欠以外の理由に

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
情報リテラシーⅡ（基礎）		作業療法科/1年	2022/後期	講義 （一部同時双方向型遠隔授業）
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（15時間）	必須	木下（実務経験あり）
授業の概要				
<p>情報リテラシーの必要性について再認識する。 プレゼンテーション発表までの過程を通して、様々なPC操作や資料・データの収集方法や活用方法を学んだり、他者と協力し意見交換・問題解決しながら課題に取り組む実践的な経験を積む。 【実務経験】 病院勤務</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>情報リテラシーの必要性を理解し説明・実践できる。 Word、Excel、PowerPointの様々な活用方法を学び実践できる。 プレゼンテーションに必要な資料・データを適切に収集したり活用できる。 伝わりやすいプレゼンテーション方法を学ぶ。 他者と協力して課題に取り組み、プレゼンテーション発表ができる。</p>				
回	テーマ	内 容		
1	情報リテラシー概論	情報リテラシーの必要性		
2	Wordの活用	演習課題		
3	Excelの活用	演習課題		
4	PowerPointの活用	演習課題		
5	プレゼンテーション	伝わりやすいスライド、発表とは		
6	プレゼンテーション	発表準備		
7	プレゼンテーション	発表準備		
8	プレゼンテーション発表	発表と振り返り		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
情報リテラシー入門編：FOM出版		課題・レポート 確認テスト	70.0% 30.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
統計学		作業療法科/1年	2022/後期	講義 (一部同時双方向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数 (時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位 (15時間)	必須	丁子雄希 (実務経験有)
授業の概要				
<p>近年、サービスの質を評価する手法として統計学的側面からのアプローチがなされており、分析ソフトの発達などを背景として、その関心は高まりつつある。本講義においては、こうした流れと今後の方向性を踏まえた上で、統計学の基礎的知識の習得を目的とする。</p> <p>【実務経験】 病院勤務</p>				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 統計学の必要性について説明できる。 ・ 取り扱うデータの尺度について理解できる。 ・ 正規分布について理解できる。 ・ 研究で用いる必要な統計手法を選択できる。 				
回	テーマ	内 容		
1	統計の基礎			
2	尺度	名義・順序・間隔・比率尺度		
3	検定			
4	t 検定	対応の有無		
5	Mann Whitney検定			
6	カイ2乗検定			
7	3群間の比較	分散分析とフリードマン検定		
8	相関と多重比較検定	相関分析とロジスティック回帰分析		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
すぐできる リハビリテーション統計 (南江堂、2012)		課題・レポート	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
スポーツ科学		作業療法科/1年	2022/前期	演習 (一部、同時双方向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	中川 等史(実務経験有)
授業の概要				
身体活動が心身の健康を維持・増進するために効果的であることの知識を身にうけ、実習を通して、自己の心身の状態と健康についての意識を高める。また、子ども、高齢者、障がい者など特性に配慮してスポーツを楽しむことを支援するための知識と技術を身につける。高齢者や障がい者がスポーツを安全に実践できるように運動の質や量を調整し、道具の工夫やルールについても学ぶ。【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・自己の心身の状態を理解し、実践する運動の質や量を調整できる ・支援者として他者の運動に関わることができる ・障がい者がスポーツを楽しめる競技を知り、ルール等の工夫ができる ・他者と協業を図りながらグループ活動が行える 				
回	テーマ	内 容		
1	概論	運動の基礎		
2	運動と健康	運動と健康との関係について		
3	ルールと道具	ビーチバレーボールを例に		
4	運動の実際	ビーチバレーボールを通しての実演		
5	ウォーキング	ウォーキングの効能		
6	探索健康ウォーキング	楽しみとウォーキング		
7	探索健康ウォーキングの実際①			
8	探索健康ウォーキングの実際②			
9	協働について			
10	自己主張と他者への配慮			
11	身体活動と協業			
12	グループ活動の実際①	協業活動を通して他者とのコミュニケーションを図る		
13	グループ活動の実際②			
14	グループ活動の実際③			
15	グループ活動の実際④			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		実習・実技評価	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
食育学		作業療法科/1年	2022/前期	演習(一部、同時双方向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	中島克己・鈴木敦史(実務経験者)
授業の概要				
<p>食育とはなにか解説し、食育の現状と課題について講義する。またライフスタイルごとの食育、日本と諸外国での食文化を比較しながら講義を進めていく。 栄養についても栄養素の種類とそれらが体に及ぼす影響について講義し、さらに基礎代謝量やエネルギー消費量についての講義、計算方法も解説していく。【実務経験】レストラン勤務</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>食育の現状と課題について理解する。 日本と諸外国の食文化の違いを知る。 栄養素の種類とそれらの作用を理解する。 基礎代謝量とエネルギー消費量を算出できる。</p>				
回	テーマ	内 容		
1	オリエンテーション	オリエンテーション エネルギーってなんだろう?カロリー、ワット、ジュールについて		
2	基礎代謝量	食事摂取エネルギー量		
3	ライフステージと食育、乳幼児と食育	乳幼児・児童期～青壮年期と食育、育会者と食育		
4	栄養素の種類と主な機能	摂取エネルギー量と消費エネルギー量の関係		
5	代謝量に影響する因子について	身体活動とエネルギー消費量		
6	基礎代謝量、活動代謝量	MBMなどの算出方法		
7	食品中の栄養素と健康	六大栄養素のはたらき		
8	調理実習①	清潔、まな板・包丁の使い方		
9	調理実習①	清潔、まな板・包丁の使い方		
10	調理実習②	米飯とみそ汁		
11	調理実習②	米飯とみそ汁		
12	調理実習③	サラダ		
13	調理実習③	サラダ		
14	調理実習④	チキン料理		
15	調理実習④	チキン料理		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
配布資料		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
健康管理学		作業療法科/2年	2022/前期	講義 (一部、同時双方向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	加藤久(実務経験あり)
授業の概要				
ヒトは食物を摂取し体内に必要な物質(栄養)を摂り入れることで生命活動を維持している。食物に含まれる栄養素の特性、栄養素の消化吸収、ライフステージの栄養学を理解した上で傷病者(主に生活習慣病)の栄養管理の基礎知識を習得する。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・五大栄養素の働き、代謝、栄養素の消化吸収などの基礎栄養学、栄養生理学について理解する。 ・ライフステージ(幼児期、成人期、高齢期)の栄養学の栄養評価の基本的な考え方を理解し、健康維持・増進のための栄養ケアマネジメントを実行できるようにする。 ・生活習慣病の基本的栄養管理を習得する。 				
回	テーマ	内容		
1	栄養とは、栄養生化学 五大栄養素(1)	炭水化物(糖質、食物繊維)の生理的特性 たんぱく質(アミノ酸、必須アミノ酸)の生理的特性		
2	五大栄養素(2)	脂質(中性脂肪、飽和脂肪酸、不飽和脂肪酸)の生理的特性		
3	五大栄養素(3)	ミネラル、ビタミンの生理的特性		
4	栄養生理学(1)	栄養素の消化・吸収、消化器官		
5	栄養生理学(2)	栄養素の消化・吸収、消化液と消化酵素及び胆汁		
6	栄養生理学(3)	付属消化器官、肝臓、胆嚢のはたらき		
7	栄養生理学(4)	付属消化器官、膵臓のはたらき		
8	栄養素の代謝(1)	糖質の代謝、TCAサイクル		
9	栄養素の代謝(2)	たんぱく質の代謝、糖原性アミノ酸、オルニチン回路(尿素サイクル)		
10	栄養素の代謝(3)	脂質の代謝、 β -酸化		
11	応用栄養学(1)	幼児期、成人期、高齢期の栄養特性		
12	応用栄養学(2)	やせ、肥満、低栄養の栄養アセスメント、栄養管理		
13	臨床栄養(1)	糖尿病の食事療法、食品交換表		
14	臨床栄養(2)	脂質異常症、高血圧症の食事療法		
15	総まとめ	復習、基礎栄養学のまとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
プリント配布		レポートなどの課題提出 期末試験	20.0% 80.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
福祉住環境コーディネータ論		作業療法科/2年	2022/前期	講義(一部、同時双方向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	1単位(30時間)	必須	梶 直美(実務経験有)
授業の概要				
福祉住環境コーディネーター3級試験に合格できる知識を身に着ける 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
福祉住環境コーディネーター3級試験に合格する				
回	テーマ	内容		
1	総論	検定試験について 学習の進め方		
2	第1章第1節	確認問題○×チェックを解きつつ、テキスト内容を確認する		
3	第1章第2節第3節	確認問題○×チェックを解きつつ、テキスト内容を確認する		
4	第2章	確認問題○×チェックを解きつつ、テキスト内容を確認する		
5	第3章	確認問題○×チェックを解きつつ、テキスト内容を確認する		
6	第4章	確認問題○×チェックを解きつつ、テキスト内容を確認する		
7	第5章	確認問題○×チェックを解きつつ、テキスト内容を確認する		
8	過去問	第45回 試験・解答解説		
9	過去問	第43回 試験・解答解説		
10	過去問	第42回 試験・解答解説		
11	過去問	第41回 試験・解答解説		
12	過去問	第40回 試験・解答解説		
13	予想問題	予想問題 試験・解答解説		
14	予想問題	予想問題 試験・解答解説		
15	予想問題	予想問題 試験・解答解説		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・福祉住環境コーディネーター3級改訂5版テキスト ・副教材:短期合格テキスト, 過去問		福祉住環境コーディネーター3級試験合格	100.0%	不合格の場合は、レポート課題

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
心理学		作業療法科/1年	2022/前期	講義 (一部、同時双方向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	
90分	15回	1単位(30時間)	必須	深澤大地(実務経験者)
授業の概要				
心理学とはなにか。学問的に解説した後、学生に身近な心理的要素を例に出し、共にどんな心理が働いて見えていく。そして、自分について心理的分析してみ、自身の心理的特徴を理解し、恋愛場面や対人関係における心理を考えてみる。この講義の最後には心理の発達について講義しまとめへとつなげていく。【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
心理学という学問を理解する。 自己分析できる。 自己を理解し、他者との心理の違いを理解して日常生活場面での対人関係に生かせる。				
回	テーマ	内 容		
1	オリエンテーション	心理学概論		
2	心理学とは何か	心を扱うこと(倫理)		
3	感じるころ	知覚とは		
4	見るころ	視覚と錯覚		
5	学習について	条件付け		
6	動機づけ	内発的動機付けと外発的動機付け		
7	考えるころ	意識と無意識		
8	自己理解1	エゴグラムから自己を知る		
9	自己理解2	自分の性格を知る		
10	心理学からみた恋愛1	恋愛と心理学Ⅰ		
11	心理学からみた恋愛2	恋愛と心理学Ⅱ		
12	対人魅力と対人関係	対人魅力とは		
13	発達について1	乳幼児期の発達		
14	発達について2	児童期・思春期の発達		
15	まとめ	メンタルヘルスについて		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
配布資料		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
障害福祉論		作業療法科/4年	2022/通年	講義（一部同時双方向型遠隔授業）
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	中村（実務経験あり）
授業の概要				
本講義では、障害者福祉全般についての理解を深め、ノーマライゼーションをはじめとする障害者福祉の理念、歴史、また制度などの幅広い知識の習得を図る。【実務経験：病院勤務】				
授業終了時の到達目標				
「障害」の概念を理解することができる。 自らの障害観を内省し、共生社会について考えることができる。				
回	テーマ	内 容		
1	概念	障害者の定義		
2	理念と展開	障害者福祉とは		
3	障害者の生活	生活実態		
4	障害者福祉の歴史			
5	法体系			
6	障害者運動	歴史と意義		
7	障害者と教育			
8	障害者と就労	雇用実態		
9	自立支援法			
10	国際	障害者の国際動向		
11	事例検討			
12	福祉の動向	我が国の福祉の動向		
13	障害者の所得保障	障害者の経済状況		
14	事例検討	自身の障害者観について		
15	まとめ			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
医学英語		作業療法科/1年	2022/前期	講義(一部、同時双方向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	西潟・梶(実務経験有)
授業の概要				
<p>実習・臨床場面における記載内容等の理解を助けていくために、英語その他について学習する。 【実務経験】病院勤務</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>1. 医療現場・リハビリテーション分野で使われている英語・略語について、その正式名称・内容を説明できる。 2. 身体所見や検査所見の英語・略語について、その正式名称・内容を説明できる。</p>				
回	テーマ	内容		
1	オリエンテーション リハビリ・健康の定義	リハビリテーションの語源、歴史、ハビリテーション療育などについての英語表記		
2	各職種の表記	リハビリテーションチームの職種の英語表現とその職種の内容		
3	身体各部の構造とその働き①	身体各部(上下肢体幹)や骨・関節についての英語表記		
4	身体各部の構造とその働き②	関節運動の医学的表現と英語表記と実際のその動き		
5	肢位・体位	姿勢について仰臥位・伏臥位・座位・立位等の運動学的表現とその英語表記		
6	身体・検査所見	診断・検査の方法およびその英語表記		
7	発症から診断・治療・退院までの流れの一例	発症から診断・治療・退院までの流れについて例を挙げて英語表記		
8	筆記体で書かれたカルテを読み取る	筆記体の読み書きができるようになる		
9	カルテ記載項目の英語表記・略語①	略語で書かれる医学英語を知る		
10	カルテ記載項目の英語表記・略語②	略語で書かれる医学英語の読み書きができるようになる		
11	カルテ記載項目の英語表記・略語③	略語で書かれる医学英語で記録できるようになる		
12	リハビリテーションで用いる英略語疾患を知る①	CVA, RA, など		
13	リハビリテーションで用いる英略語疾患を知る②	Colles functionなど		
14	リハビリテーションで用いる英略語疾患を知る③	CP, COPMなど		
15	訓練室で用いる簡単な英会話	私は理学療法士の〇〇です。今日の調子はいかがですか？ これから、リハビリテーションを始めましょう！		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
特に指定なし。		期末試験 確認テスト	50.0% 50.0%	・医学英語は、カルテを読んだり、チーム医療のコミュニケーションツールとして重要です。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
コミュニケーション援助技術論		作業療法科/1年	2022/前期	講義 (一部、同時双方向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	竹中 誠
授業の概要				
医療現場で学生として求められるコミュニケーション・スキルについて学ぶ。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
専門職としてふさわしい態度をとることができるようになる。				
回	テーマ	内容		
1	『気づくこと』 (グループワーク)	見えているもの、気づくこと、異常や問題点 (グループワークの進め方を覚える)		
2	『気づくこと』 (グループワーク)	異常や問題点、解決方法、実施計画 (グループワークの進め方を覚える)		
3	ルールとモラルとマナー、身だしなみ、挨拶、お辞	社会人として守るべきこと、慣習、空気を読んだの行動、会話の間合い、行間を読むこと、身だしなみ、TPOを考えた挨拶、お辞儀の選択		
4	コーチング・ティーチング	コーチングとティーチング		
5	プライバシー配慮	個人情報保護、医療現場でのプライバシー配慮		
6	コミュニケーションの基本	言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション		
7	ハウレンソウ	報告・連絡・相談		
8	敬語のつかいかた、言葉遣い	教員と学生、実習生とSVや患者。尊敬語と謙譲語。		
9	ハガキ・封筒の書き方	臨床実習でのお礼状の書き方		
10	電子メール・SNSでのマナー	電子メール・SNSでのマナー		
11	共感的態度	共感的な会話と態度		
12	感情のコントロール	自身の感情のコントロール		
13	電話のかけかた	臨床実習へ行く前に×電話のかけ方(実践編)		
14	表情・態度	表情や態度で相手を感じる印象、感情		
15	良好な関係作り	信用と信頼について		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		レポート	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
解剖学Ⅰ(骨学)		作業療法科/1年	2022/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	中 聡之
授業の概要				
<p>人の根本である骨について学び、解剖学Ⅱ(筋学)の起始停止につなげられるようにする。 講義は、基本的に座学で行うが、講義の後半は、骨模型を使用し、視覚的・立体的に骨の名称や配置について 理解を深められるようにする。</p>				
<ul style="list-style-type: none"> ・骨の名称、位置の理解を深めることができる。 ・人体模型を使用し、骨の位置を理解できるようになる ・筋の起始停止、運動方向も含め理解ができるようになる 				
回	テーマ	内 容		
1	オリエンテーション	授業の進め方や試験について		
2	骨格について①	骨格の概論		
3	骨格について②	骨の原理原則		
4	骨格について②	骨格の概論		
5	骨格について②	骨格の概論		
6	骨について	骨のリモデリングについて		
7	脊柱①	脊柱の骨の名称について		
8	脊柱②	イラストを書いて理解しよう		
9	鎖骨・肩甲骨①	鎖骨・肩甲骨の名称について		
10	鎖骨・肩甲骨②	イラストを書いて理解しよう		
11	上腕骨①	上腕骨の名称について		
12	上腕骨②	イラストを書いて理解しよう		
13	橈骨・尺骨①	橈骨、尺骨の名称について		
14	橈骨・尺骨②	イラストを書いて理解しよう		
15	手部①	手部の骨の名称について		

回	テーマ	内容		
16	手部②	イラストを書いて理解しよう		
17	骨盤①	骨盤の名称について		
18	骨盤②	イラストを書いて理解しよう		
19	大腿骨①	大腿骨の名称について		
20	大腿骨②	イラストを書いて理解しよう		
21	脛骨・腓骨①	脛骨、腓骨の名称について		
22	脛骨・腓骨②	イラストを書いて理解しよう		
23	足根部①	足根部の名称について		
24	足根部②	イラストを書いて理解しよう		
25	頭部①	頭部の名称について		
26	頭部②	イラストを書いて理解しよう		
27	まとめ	骨について		
28	まとめ	上肢・体幹		
29	まとめ	下肢・足部		
30	まとめ	手部・頭部		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
プロメテウスコアアトラス 標準理学療法学、作業療法学 解剖学 授業資料		小テスト（全5回） 課題（イラスト課題） 期末試験	20.0% 20.0% 60.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
解剖学Ⅱ(筋学)		作業療法科/1年	2022/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	中 聡之(実務経験あり)
授業の概要				
模型触診、動画視聴、イラストを通じて、筋肉を理解する				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・人体を構成している筋名を列挙できる。 ・筋の起始・停止・支配神経が列挙できる。 ・筋の起始・停止や走行をイメージして、作用が理解できる。 				
回	テーマ	内容		
1	概論	オリエンテーション		
2	筋とは	筋の構造について		
3	肩関節の筋肉	三角筋、棘上筋、棘下筋、小円筋、肩甲下筋		
4	肩関節の筋肉	三角筋、棘上筋、棘下筋、小円筋、肩甲下筋		
5	肩関節の筋肉	大円筋、広背筋、大胸筋、烏口腕筋		
6	肩関節の筋肉	大円筋、広背筋、大胸筋、烏口腕筋		
7	肩甲骨の筋肉	僧帽筋、肩甲挙筋、小菱形筋、大菱形筋、小胸筋、前鋸筋		
8	肩甲骨の筋肉	僧帽筋、肩甲挙筋、小菱形筋、大菱形筋、小胸筋、前鋸筋		
9	上腕の筋肉	上腕二頭筋、上腕筋、上腕三頭筋、肘筋、円回内筋、腕橈骨筋		
10	上腕の筋肉	上腕二頭筋、上腕筋、上腕三頭筋、肘筋、円回内筋、腕橈骨筋		
11	前腕～手指	橈骨手根屈筋、長掌筋、尺側手根屈筋、浅指屈筋、深指屈筋 長母指屈筋、方形回内筋、長橈側手根伸筋、短橈側手根伸筋 総指伸筋、小指伸筋、尺側手根伸筋		
12	前腕～手指	橈骨手根屈筋、長掌筋、尺側手根屈筋、浅指屈筋、深指屈筋 長母指屈筋、方形回内筋、長橈側手根伸筋、短橈側手根伸筋 総指伸筋、小指伸筋、尺側手根伸筋		
13	前腕～手指	回外筋、長母指外転筋、短母指伸筋、長母指伸筋、示指伸筋 短母指外転筋、短母指屈筋、母指対立筋、母指内転筋		
14	前腕～手指	回外筋、長母指外転筋、短母指伸筋、長母指伸筋、示指伸筋 短母指外転筋、短母指屈筋、母指対立筋、母指内転筋		
15	手指	短掌筋、小指外転筋、短小指屈筋、小指対立筋、虫様筋 背側骨間筋、掌側骨間筋		

回	テーマ	内容		
16	下肢の筋肉	縫工筋、大腿直筋、外側広筋、中間広筋、内側広筋、恥骨筋 長内転筋、短内転筋、大内転筋		
17	下肢の筋肉	縫工筋、大腿直筋、外側広筋、中間広筋、内側広筋、恥骨筋 長内転筋、短内転筋、大内転筋		
18	下肢の筋肉	薄筋、外閉鎖筋、大腿二頭筋、半腱様筋、半膜様筋 前脛骨筋、長趾伸筋、第三腓骨筋、長母趾伸筋、長腓骨筋、短腓骨筋		
19	下肢の筋肉	薄筋、外閉鎖筋、大腿二頭筋、半腱様筋、半膜様筋 前脛骨筋、長趾伸筋、第三腓骨筋、長母趾伸筋、長腓骨筋、短腓骨筋		
20	下肢の筋肉	腓腹筋、ヒラメ筋、足底筋、膝窩筋、長趾屈筋 長母指屈筋、後脛骨筋		
21	下腿の筋肉	腓腹筋、ヒラメ筋、足底筋、膝窩筋、長趾屈筋 長母指屈筋、後脛骨筋		
22	頭部の筋肉 体幹筋群	胸鎖乳突筋、前斜角筋、中斜角筋、後斜角筋 横隔膜、腹直筋、外腹斜筋、内腹斜筋、腹横筋、腰方形筋 腰部多裂筋		
23	頭部の筋肉 体幹筋群	胸鎖乳突筋、前斜角筋、中斜角筋、後斜角筋 横隔膜、腹直筋、外腹斜筋、腹横筋、腰方形筋、腰部多裂筋		
24	寛骨筋群	腸骨筋、大腰筋、大殿筋、中殿筋、小殿筋、大腿筋膜張筋 梨状筋、内閉鎖筋、上双子筋、下双子筋、大腿方形筋		
25	寛骨筋群	腸骨筋、大腰筋、大殿筋、中殿筋、小殿筋、大腿筋膜張筋 梨状筋、内閉鎖筋、上双子筋、下双子筋、大腿方形筋		
26	足の筋肉	母趾外転筋、短母趾屈筋、母趾内転筋、小趾外転筋、短小趾屈筋 小趾対立筋、短趾屈筋、足底方形筋、虫様筋、底側骨間筋 短母趾伸筋、短趾伸筋		
27	足の筋肉	母趾外転筋、短母趾屈筋、母趾内転筋、小趾外転筋、短小趾屈筋 小趾対立筋、短趾屈筋、足底方形筋、虫様筋、底側骨間筋 短母趾伸筋、短趾伸筋		
28	咀嚼筋	側頭筋、咬筋、外側翼突筋、内側翼突筋		
29	咀嚼筋	側頭筋、咬筋、外側翼突筋、内側翼突筋		
30	まとめ	復習		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
標準理学療法学・作業療法学「解剖学第5版」 プロメテウスコアアトラス		期末試験 イラスト課題 小テスト	70.0% 10.0% 20.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
解剖学Ⅲ (内臓・脈管学)		作業療法科/1年	2022/後期	講義(一部、同時双方向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	白瀬・山本(実務経験あり)

授業の概要

理学療法士や作業療法士が対象とする内科疾患(循環器、呼吸器、泌尿器、消化器、内分泌)の病態を理解するため、講義・演習を通して構造を学ぶ
【実務経験】病院勤務

授業終了時の到達目標

- ・循環器系：心臓と、脳・上肢・下肢への血液供給を理解する
- ・呼吸器系：ガス交換に関わる肺と、発生に関わる喉頭について理解する
- ・泌尿器系：腎臓および排尿に関わる構造体を理解する
- ・消化器系：胃、腸、肝臓、および嚥下にかかわる構造体を理解する
- ・生殖器系：男性では精巣および勃起と射精に関わる構造体を理解する
- ・内分泌系：各内分泌系の特徴を学び、分泌されるホルモンとその主要作用を理解する
- ・女性では卵巣と子宮の性周期における変化を理解する

回	テーマ	内容
1	総論	理学療法・作業療法との関連事項
2	血管系	動脈と静脈、毛細血管、吻合と終動脈
3	心臓	位置、区分、弁、心臓壁の構成、心膜
4	リンパ系(1)	毛細リンパ管、リンパ管、リンパ節
5	鼻	外鼻と鼻腔、副鼻腔
6	気管と気管支 肺	気管と気管支
7	肺	肺
8	胸膜と縦隔	胸膜と縦隔
9	消化器系(口腔)	口蓋、舌、歯、唾液腺
10	食道、胃	食道、胃
11	小腸、大腸	十二指腸、空腸、回腸、盲腸、結腸、直腸
12	肝臓、胆嚢	肝臓、胆嚢
13	泌尿器系	腎臓
14	生殖器系	生殖器
15	内分泌系	ホルモンと標的細胞、下垂体

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第5版 病気がみえるvol.2 循環器 病気がみえるvol.4 呼吸器	期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
解剖学Ⅳ (神経学)		作業療法科/1年	2022/後期	講義(一部、同時双方向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	竹中・白瀬(実務経験有)

授業の概要

中枢神経疾患の特徴を理解するために、それぞれの構造や働きを講義、演習を通して学ぶ。
【実務経験】病院勤務

授業終了時の到達目標

1. 中枢神経系の構造と働きについて概説できる。
2. 脳の構造と働きについて概説できる。
3. 大脳皮質、大脳辺縁系、脳幹、小脳それぞれの機能と構造について説明できる。

回	テーマ	内容
1	神経系総論	神経系の区分
2	神経系の構成	神経組織、中枢神経系の構成、末梢神経系の構成
3	髄膜と脳室系	髄膜と脳室系の構成
4	神経系の発生	脊髄、脳、末梢神経の発生
5	脊髄	脊髄の外形と横断面
6	脳幹	延髄
7	脳幹	橋
8	脳幹	中脳、網様体
9	小脳	小脳の外形と区分
10	小脳	小脳の入出力と機能
11	大脳	間脳
12	大脳	大脳半球
13	大脳	大脳皮質と髄質
14	大脳	大脳皮質の機能局在
15	大脳	大脳基底核

回	テ ー マ	内 容		
16	神経路	上行性神経路①		
17	神経路	上行性神経路②		
18	神経路	下行性神経路①		
19	神経路	下行性神経路②		
20	脊髄神経	頸神経		
21	脊髄神経	頸神経		
22	脊髄神経	腰神経		
23	脊髄神経	腰神経		
24	脊髄神経	仙骨神経		
25	脊髄神経	仙骨神経		
26	脳神経	嗅神経、視神経、動眼神経		
27	脳神経	滑車神経、三叉神経、外転神経		
28	脳神経	顔面神経、内耳神経、舌咽神経		
29	脳神経	迷走神経、副神経、舌下神経		
30	自律神経	交感神経系、副交感神経系		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
標準理学療法学・作業療法学 解剖学 第5版 医学書院 病気がみえるVol.7 脳・神経 第2版		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
生理学 I (呼吸・循環・代謝)		作業療法科/1年	2022/前期	講義 (一部同時双方向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数 (時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位 (60時間)	必須	西潟・白瀬 (実務経験あり)

授業の概要

理学療法士や作業療法士が対象とする内科疾患 (循環器、呼吸器) の病態を理解するため、講義・演習を通して機能を学ぶ

【実務経験】 病院勤務

授業終了時の到達目標

- ・血液の機能を理解できる
- ・循環器系の機能を理解できる
- ・呼吸器系の機能を理解できる
- ・代謝の機能を理解できる

回	テーマ	内容
1	総論	理学療法士と作業療法士との関連事項
2	血液 (1)	血液の組成と機能
3	血液 (2)	赤血球
4	血液 (3)	白血球、血小板
5	血液 (4)	血漿
6	血液 (5)	血液型
7	心臓と循環 (1)	血液の循環
8	心臓と循環 (2)	心臓の興奮と刺激伝導系
9	心臓と循環 (3)	心電図 1
10	心臓と循環 (4)	心電図 2
11	心臓と循環 (5)	血液の拍出と血圧
12	心臓と循環 (6)	心周期
13	心臓と循環 (7)	圧-容積関係
14	心臓と循環 (8)	心機能曲線
15	心臓と循環 (9)	血圧の調節

回	テーマ	内 容		
16	心臓と循環（10）	微小循環と物質交換		
17	心臓と循環（11）	静脈還流		
18	心臓と循環（12）	臓器循環		
19	心臓と循環（13）	リンパ循環		
20	呼吸とガスの運搬（1）	外呼吸と内呼吸		
21	呼吸とガスの運搬（2）	気道と肺胞		
22	呼吸とガスの運搬（3）	呼吸運動		
23	呼吸とガスの運搬（4）	呼吸気量		
24	呼吸とガスの運搬（5）	ガス交換とガスの運搬		
25	呼吸とガスの運搬（6）	呼吸の調節		
26	呼吸とガスの運搬（7）	病的呼吸		
27	代謝と体温（1）	栄養素		
28	代謝と体温（2）	エネルギー代謝		
29	代謝と体温（3）	体温		
30	まとめ	国家試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第4版 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第5版 病気がみえるvol.2 循環器 病気がみえるvol.4 呼吸器		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
生理学Ⅱ (泌尿器・内分泌・消化・感覚)		作業療法科/1年	2022/後期	講義 (一部同時双方向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数 (時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位 (60時間)	必須	山本・白瀬・竹中 (実務経験あり)
授業の概要				
理学療法士や作業療法士が対象とする内科疾患 (泌尿器、消化器、内分泌) の病態を理解するため、講義・演習を通して機能を学ぶ 【実務経験】 病院勤務				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・泌尿器の機能を理解できる ・酸塩基平衡を理解できる ・消化器系の機能を理解できる ・感覚器系の機能を理解できる 				
回	テーマ	内 容		
1	概論	理学療法・作業療法との関連事項		
2	泌尿器 (1)	腎臓の役割 1		
3	泌尿器 (2)	腎臓の役割 2		
4	泌尿器 (3)	腎臓の構造		
5	泌尿器 (4)	尿の生成		
6	泌尿器 (5)	クリアランス		
7	泌尿器 (6)	排尿		
8	泌尿器 (7)	尿の性状と排尿の異常		
9	酸塩基平衡 (1)	血漿のpH調節		
10	酸塩基平衡 (2)	アシドーシスとアルカローシス		
11	消化 (1)	消化器の役割		
12	消化 (2)	口腔内消化と嚥下		
13	消化 (3)	食道における食物輸送		
14	消化 (4)	胃の役割と消化		
15	消化 (5)	十二指腸における消化		

回	テ ー マ	内 容		
16	消化（6）	空腸・回腸における消化と栄養素の吸収		
17	消化（7）	大腸の役割		
18	消化（8）	肝臓の役割 1		
19	消化（9）	肝臓の役割 2		
20	感覚（1）	感覚とは		
21	感覚（2）	体性感覚		
22	感覚（3）	内臓感覚		
23	感覚（4）	特殊感覚 1		
24	感覚（5）	特殊感覚 2		
25	感覚（6）	特殊感覚 3		
26	内分泌（1）	内分泌機能とホルモン		
27	内分泌（2）	内分泌機能とホルモン		
28	内分泌（3）	各腺から分泌されるホルモンの作用 1		
29	内分泌（4）	各腺から分泌されるホルモンの作用 2		
30	内分泌（5）	各腺から分泌されるホルモンの作用 3		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第4版		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
運動学 I (総論・上肢)		作業療法科/1年	2022/後期	講義(一部同時双方向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	中川等史(実務経験有)

授業の概要

身体運動を理解するための基礎知識を学ぶ。
【実務経験】病院勤務

授業終了時の到達目標

- ・四肢と体幹の運動を理解するための基礎知識を学ぶ。
- ・運動分析、動作分析を理解できる。
- ・生活力学が理解できる。

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション、総論	
2	上肢帯と肩関節での上肢の運動①	関節と靭帯
3	上肢帯と肩関節での上肢の運動②	上肢帯と肩関節での上肢の動き
4	上肢帯と肩関節での上肢の運動③	上肢帯の筋、肩関節の筋
5	肘関節と前腕の運動①	関節と靭帯
6	肘関節と前腕の運動②	肘関節における前腕の動き、肘関節の筋
7	上肢帯と上肢の運動	
8	手関節と手の運動①	皮膚、骨、関節と靭帯
9	手関節と手の運動②	腱鞘、指背腱膜、手関節と手の運動
10	手関節と手の運動③	手のアーチ、手の把持動作パターン
11	手関節と手の運動④	手の機能姿位、手の変形
12	顔面および頭部の運動	
13	体幹の運動①	頸椎の運動
14	体幹の運動②	胸椎と胸郭の運動
15	体幹の運動③	腰椎の運動

回	テーマ	内 容		
16	下肢帯と股関節の運動①	関節と靭帯		
17	下肢帯と股関節の運動②	股関節の動き		
18	下肢帯と股関節の運動③	股関節の筋		
19	膝関節の運動			
20	足の関節と足の運動	アーチの構造と機能		
21	下肢帯と下肢の運動			
22	姿勢・動作①	重心、立位姿勢		
23	姿勢・動作②	立位姿勢の異常		
24	歩行と走行①	歩行周期、異常歩行		
25	歩行と走行②	運動力学的分析		
26	運動発達			
27	呼吸・エネルギー代謝			
28	運動学習			
29	バイオメカニクス①	運動学的分析、円運動、モーメント		
30	バイオメカニクス②	運動法則、身体とてこ、骨と関節の運動		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
基礎運動学（第6版） 中村隆一 医歯薬出版株式会社		期末試験	100.0%	合計が60%未満の場合は、レポート課題を実施します。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
運動学Ⅱ		作業療法科/2年	2022/前期	講義・演習(一部同時双方向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	中川(実務経験有)
授業の概要				
運動学で学んだ正常なヒトの身体運動の知識をもとに、主に骨・関節・運藤器系の機能解剖を臨床に照らし合わせて理解する。【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
ヒトの運動・動作・活動の仕組みの理解と、観察や記録方法・プレゼンテーション技術などの基礎技術を身につける				
回	テーマ	内容		
1	骨性ランドマーク・肩甲骨上腕リズムの測定・肢位による握力・ピンチ力	触診・測定法、データ解析、文献検索の確認		
2	立ち上がり動作・立位姿勢と機能的リーチの分析	測定法の説明、データ解析の方法、文献検索の確認		
3	歩行分析	測定法の説明、データ解析の方法、文献検索の確認		
4	踏み台昇降での疲労度	測定法の説明、データ解析の方法、文献検索の確認		
5	実習レポート・発表にについて	実習のレポートの書き方を学ぶ。プレゼンテーションの仕方を学ぶ。		
6	実習：骨性ランドマーク	自己で触診		
7	実習：骨性ランドマーク・肩甲骨上腕リズム	触診・測定とデータ収集		
8	実習：骨性ランドマーク・肩甲骨上腕リズム	解析		
9	実習：骨性ランドマーク・肩甲骨上腕リズム	考察		
10	実習：骨性ランドマーク・肩甲骨上腕リズム	発表		
11	実習：握力・ピンチ力	肢位による握力やピンチ力の違いを測定し、データ収集		
12	実習：握力・ピンチ力	データ解析		
13	実習：握力・ピンチ力	考察		
14	実習：握力・ピンチ力	発表		
15	実習：立ち上がり動作	立ち上がり動作での重心移動と各関節の運動を分析する 測定とデータ収集		
16	実習：立ち上がり動作	解析		
17	実習：立ち上がり動作	考察		

18	実習：立ち上がり動作	発表		
19	実習：立位姿勢と機能的リーチ検査	立位での重心動揺と機能的リーチ検査のとの関係性をみる 測定とデータ収集		
20	実習：立位姿勢と機能的リーチ検査	解析		
21	実習：立位姿勢と機能的リーチ検査	考察		
22	実習：立位姿勢と機能的リーチ検査	発表		
23	実習：歩行分析	歩行における各関節の運動の分析を行う 測定とデータ収集		
24	実習：歩行分析	解析		
25	実習：歩行分析	考察		
26	実習：歩行分析	発表		
27	実習：踏み台昇降	疲労度のチェックと分析を行う 測定とデータ収集		
28	実習：踏み台昇降	解析		
29	実習：踏み台昇降	考察		
30	実習：踏み台昇降	発表		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
基礎運動学 第6版（中村隆一）		課題・レポート 実習・実技評価	50.0% 50.0%	実技は動きやすい服装、ケースを着用すること。 基礎運動学を持参すること。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
人間発達学		作業療法科/1年	2022/後期	講義 (一部、同時双方向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	杉本和彦(実務経験有)
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> ・正常発達について ・発達心理学について ・小児疾患における運動発達の問題点について ・発達障害について 【実務経験】病院勤務 				
授業終了時の到達目標				
小児の運動面、認知面の発達に関する知識及び生涯にわたる発達の意味を理解する				
回	テーマ	内 容		
1	小児の保健概論	身長と体重の変化 スキヤモンの発達曲線 発達に関する定義		
2	胎児の運動発達	胎芽と胎児の発達過程 早期産、未成熟児の抱える問題について		
3	1歳児までの粗大運動の発達について1	原始反射、姿勢反射・反応について		
4	1歳児までの粗大運動の発達について2	首のすわり、寝返りの獲得までの発達のポイントについて		
5	1歳児までの粗大運動の発達について3	座位獲得の意味するところについて		
6	1歳児までの粗大運動の発達について4	立ち上がり、歩行獲得までの発達のポイントについて		
7	1歳児以降の運動の発達について1	3歳までの粗大運動の発達過程について		
8	1歳児以降の運動の発達について2	4～6歳までの粗大運動の発達について		
9	手の機能と摂食・嚥下機能の発達について	粗大運動の発達をベースにした微細運動の発達過程について		
10	発達心理学概論1	感覚・知覚・認知の発達、知的活動の発達、心の理論		
11	発達心理学概論2	エリクソンの発達課題、老年期の課題		
12	運動発達に困難さを示す小児疾患について(CP)1	脳性まひの発達における困難さについて(両麻痺、四肢麻痺)		
13	運動発達に困難さを示す小児疾患について(CP)2	脳性まひの発達における困難さについて(片麻痺、アテトーゼ)		
14	運動発達に困難さを示す小児疾患について(CP以外の)3	筋ジストロフィー、二分脊椎、ダウン症の発達における困難さについて		
15	発達障害について	自閉症スペクトラム、ADHD、LD児の有する発達上の困難さについて		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
イラストでわかる人間発達学 上杉雅之監修 医歯薬出版		期末試験 課題・レポート	60.0% 40.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
病理学概論		作業療法科/1年	2022/後期	講義（一部同時双方向型遠隔授業）
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	野口、田中、高木（実務経験有）
授業の概要				
全講義15回。 病理学では生体が機能低下に陥った時の反応を学ぶ科目である。したがって生理学を理解していることが前提となる。 病理学でも各器官ごとの病態を解説していく。【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
各器官ごとの病態を理解する。				
回	テーマ	内容		
1	総論①（先天異常、代謝障害）	病理学総論、先天異常、代謝障害		
2	総論②（進行性病変、循環障害）	進行性病変、循環障害		
3	総論③（炎症、腫瘍）	炎症、腫瘍		
4	総論④（免疫病理と感染症）	免疫病理と感染症		
5	循環障害	局所循環障害、全身性循環障害		
6	炎症	炎症細胞、炎症の分類		
7	免疫	免疫病理		
8	感染症	感染源、感染症の成立		
9	代謝障害	萎縮、蛋白変性、脂肪・糖原・色素変性		
10	老化、新生児、遺伝	老化と病気、正期生ま		
11	腫瘍	腫瘍の定義と分類、形態		
12	消化器、呼吸器	口腔・消化管、肝臓、膵臓		
13	造血器、腎臓	機能と形態		
14	内分泌、神経、運動器	機能と形態		
15	定期試験、まとめ	病理診断		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
「カラーで学べる 病理学 第4版」渡辺照男 編 ニューベルヒロカワ		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
臨床心理学		作業療法科/1年	2022/後期	講義 (一部同時双方向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数 (時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位 (30時間)	必須	深澤大地 (実務経験者)

授業の概要

臨床心理学とは何か解説した後、ライフサイクルに沿った心の発達過程、心理的問題について解説していく。
 講義後半ではカウンセリングについて講義し、カウンセリングの流れを解説していく。また事例を挙げても解説を加え、注意点も合わせて説明していく。
 【実務経験】病院勤務

授業終了時の到達目標

ライフサイクルに沿った心の発達過程、心理的問題について理解する。
 カウンセリングの流れを知る。

回	テーマ	内容
1	臨床心理学とは	臨床心理とは？臨床心理学総論
2	乳幼児のころ	乳幼児期
3	乳児期のころ	幼児期
4	乳児期のころの問題	幼児期の心理的問題
5	児童期のころ	児童期
6	思春期のころ	思春期①
7	思春期のころの問題	思春期②
8	青年期・成人期のころ	青年期、成人期
9	カウンセリング 1	カウンセリングについて～導入～
10	カウンセリング 2	カウンセリングについて～方法～
11	カウンセリング 3	カウンセリングについて～解釈～
12	カウンセリング 4	カウンセリングについて～解釈～
13	こどものカウンセリング	子どものカウンセリング
14	保護者支援	保護者支援
15	まとめ	復習とまとめ

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
配布資料	期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
整形外科学		作業療法科/2年	2022/後期	講義 (一部、同時双方向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	北野(実務経験あり)
授業の概要				
整形外科の病態と治療過程について理解を深めることを目的とする。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
整形疾患の病態と治療課程について理解する。				
回	テーマ	内容		
1	軟部組織損傷、骨折、脱臼総論	骨と軟骨と関節について		
2	脊椎、脊髄損傷	脊髄損傷		
3	末梢神経損傷	神経断裂		
4	スポーツ障害と外傷	種々の疾患・病態・治療法など		
5	上肢・胸郭の外傷、骨盤・下肢の外傷	種々の疾患・病態・治療法など		
6	頰椎疾患・胸椎・腰痛疾患	種々の疾患・病態・治療法など		
7	慢性関節疾患	種々の疾患・病態・治療法など		
8	関節リウマチとその類縁疾患	寛解レベル		
9	肩・肘関節疾患	種々の疾患・病態・治療法など		
10	手関節・手指の疾患	種々の疾患・病態・治療法など		
11	股関節疾患	大腿骨骨折中心に		
12	膝関節疾患	変形性膝関節症を中心に		
13	足関節・足趾の疾患	種々の疾患・病態・治療法など		
14	骨軟部腫瘍、先天異常・系統疾患	癌		
15	まとめ1	整形疾患全般に関わるうえでのリスク		
16	まとめ2	整形疾患全般		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
『標準整形外科学 第12版』松野丈夫 著 医学書院 『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎 分野 整形外科学第3版』立野勝彦 著 医学書院		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
内科学 I (総論)		作業療法科/1年	2022/後期	講義 (一部同時双方向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数 (時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位 (30時間)	必須	山田、本藤、北沢、刀塚、平谷、平名 (実務経験有)
授業の概要				
内科学診断のためのアプローチや治療法について学習する。また、療法士としての必要な内科学の基本的な知識を習得することを目標とする。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
内科学に関する基本的知識、各種疾病の病態概念、治療のアウトライン等を習得する				
1. バイタルサインを正しく測定できる				
2. 患者さんの訴えおよび症候から内科疾患を絞り込める				
3. 内科学の全領域を学習し、リハビリテーション治療を受ける患者さんの基礎疾患の病態を理解できる				
4. 感染症を理解して公衆衛生学観点から感染を予防するなど危機管理に努める				
5. 内科学の基本的知識をもって患者さんの微小な病態変化を迅速に察知し、最適な対応がとれる				
回	テーマ	内容		
1	内科学総論	リハビリテーションとの関係 診断と治療の実際		
2	症候学	症候とは何か 主要な症候を生じる病態と関連疾患		
3	循環器疾患 1	循環器系の解剖と生理		
4	循環器疾患 2	主要な症候		
5	循環器疾患 3	診断法		
6	疾患各論 1	高低血圧症、心疾患		
7	疾患各論 2	大動脈疾患、末梢血管疾患		
8	呼吸器疾患 1	解剖と生理		
9	呼吸器疾患 2	主要な症候と病態生理		
10	呼吸器疾患 3	臨床検査所見		
11	疾患各論 1	COPD、肺疾患		
12	疾患各論 2	呼吸不全、異常呼吸		
13	血液・造血器疾患	主要な症候と病態生理		
14	代謝性疾患	主要な症候と病態生理		
15	まとめ、復習	振り返り		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
標準理学療法学・作業療法学 内科学 第3版 配布資料		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
内科学Ⅱ（各論）		作業療法科/2年	2022/後期	講義 （一部、同時双方向型遠隔授業）
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	山田、篠田、柳川 塚田、今井（実務経験あり）
授業の概要				
<p>内科学Ⅰで学んだ基礎知識をもとに、循環器・呼吸器・消化器・血液・内分泌疾患の各論について理解を深める。療法士として必要な内科学の応用的な知識の習得を目標とする。</p> <p>【実務経験】病院勤務</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>内科学に関する基本的知識、各種疾病の病態概念、治療のアウトライン等を習得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. バイタルサインを正しく測定できる。 2. 患者さんの訴えおよび症候から内科疾患を絞り込める。 3. 内科学の全領域を学習し、リハビリテーション治療を受ける患者さんの基礎疾患の病態を理解できる。 4. 感染症を理解して公衆衛生学観点から感染を予防するなど危機管理に努める。 5. 内科学の基本的知識をもって患者さんの微小な病態変化を迅速に察知し、最適な対応がとれる。 				
回	テーマ	内 容		
1	消化器疾患1	消化器疾患 消化管の解剖と生理		
2	消化器疾患2	消化管疾患の症候とその病態生理、検査法		
3	消化器疾患3	消化管疾患各論		
4	肝胆膵疾患1	肝胆膵疾患 肝臓、胆道系、膵臓、腹膜の解剖と生理		
5	肝胆膵疾患2	肝胆膵疾患、腹膜疾患の検査・診断法と各論		
6	内分泌疾患1	内分泌疾患 総論、内分泌腺の総論、解剖と生理		
7	内分泌疾患2	内分泌検査法、内分泌疾患各論		
8	腎・泌尿器疾患1	腎・泌尿器疾患 腎臓の解剖と生理		
9	腎・泌尿器疾患2	腎疾患の症候と病態生理、検査法		
10	腎・泌尿器疾患3	腎・泌尿器疾患各論		
11	電解質異常	電解質代謝		
12	アレルギー疾患	免疫系の働き、アレルギー疾患の各論		
13	膠原病、リウマチ性疾患、免疫不全症	膠原病、リウマチ性疾患、免疫不全症の各論		
14	感染症1	感染症総論		
15	感染症2	感染症各論		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
標準理学療法学・作業療法学 内科学 第3版 配布資料		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
神経内科学 I (総論)		作業療法学/1年	202/後期	講義 (一部、同時双方向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	竹中 誠(実務経験有)
授業の概要				
神経疾患による障害に対して理学療法や作業療法を行うためには、これらの疾患に関する十分な知識をもつことと、これら疾患の患者の中で多数を占める高齢者の精神身体面の特徴、ことに加齢に伴う内科疾患などの合併症について十分な知識が必要である。本科目では各論を学ぶ上で必要となる神経症候学についての基礎知識を習得することを目的とする。【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
神経学的診断や症候について評価する上で必要となる知識を習得する				
回	テーマ	内容		
1	神経学的診断と評価	神経学的診断の実際、体幹・四肢の診療と検査 障害の評価		
2	神経学的検査法	画像診断、神経生理学的検査、自律神経機能検査 腰椎穿刺と血液生化学検査		
3	神経症候学	意識障害、脳死、植物状態		
4	神経症候学	頭痛、めまい、失神		
5	神経症候学	運動麻痺、錐体路徴候、筋萎縮		
6	神経症候学	錐体外路徴候、不随意運動		
7	神経症候学	運動失調		
8	神経症候学	感覚障害		
9	神経症候学	高次脳機能障害：総論、失語症		
10	神経症候学	高次脳機能障害：失認、失行		
11	神経症候学	高次脳機能障害：記憶障害		
12	神経症候学	高次脳機能障害：注意障害、遂行機能障害		
13	神経症候学	構音障害		
14	神経症候学	嚥下障害		
15	神経症候学	脳神経外科領域疾患の代表的症候		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
標準理学療法学・作業療法学 神経内科学 第5版 改訂第2版 神経診察クローズアップ 正 しい病巣診断のコツ		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
神経内科学Ⅱ（各論）		作業療法科/2年	2022/後期	講義（一部同時双方向型遠隔授業）
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	竹中 誠（実務経験あり）
授業の概要				
神経疾患による障害に対して理学療法や作業療法を行うためには、これらの疾患に関する十分な知識をもつことと、これら疾患の患者の中で多数を占める高齢者の精神身体面の特徴、ことに加齢に伴う内科疾患などの合併症について十分な知識が必要である。本科目では疾患各論でそれぞれの疾患特性についての基礎知識を習得することを目的とする。【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
各神経疾患の疾患特性に関する基礎知識を習得する				
回	テーマ	内容		
1	脳血管障害	脳血管障害とは、脳血管障害の症状と分類 脳血管障害の診断と治療		
2	認知症	認知症とは、認知症の鑑別診断、治療可能な認知症		
3	脳腫瘍	脳腫瘍とは、脳腫瘍各論		
4	外傷性脳損傷	外傷性脳損傷の概要、外傷性脳損傷の症状と治療		
5	脊髄疾患	脊髄損傷、脊髄損傷の随伴症状と合併症 脊髄損傷の心理的問題、訓練、日常生活		
6	変性疾患、脱髄疾患	変性疾患、脱髄疾患		
7	錐体外路の変性疾患	錐体外路の変性疾患の定義、錐体外路疾患各論		
8	末梢神経障害	末梢神経障害の分類、末梢神経損傷、末梢性ニューロパチー		
9	てんかん	てんかんとは、てんかんの診断と治療		
10	筋疾患	ミオパチーとは、進行性筋ジストロフィー、ミトコンドリア病、先天性ミオパチー、多発性筋炎、周期性四肢麻痺、 中枢性代謝性筋疾患、筋無力症		
11	感染性疾患	神経系の感染、感染性疾患各論		
12	中毒性疾患、栄養欠乏による神経疾患	中毒性疾患、栄養欠乏による神経疾患		
13	小児神経疾患	小児の診方、脳性麻痺、二分脊椎		
14	神経疾患に多い合併症	廃用症候群と誤用症候群、合併症		
15	神経疾患に多い合併症	排尿障害、性機能障害		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
標準理学療法学・作業療法学 神経内科学 第5版 改訂第2版 神経診察クローズアップ 正しい病巣診断のコツ		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
精神医学		作業療法科/2年	2022/前期	講義 (一部、同時双方型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	江守(実務経験あり)
授業の概要				
精神医学における主要疾患の症状、診断、治療法について述べ、精神療法の概要についての理解を深める。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> 精神医学における主要疾患の症状、診断、治療について説明することができる。 精神療法の概要について理解することができる。 				
回	テーマ	内容		
1	総論	精神医学とは		
2	精神症状1	精神障害の成因と分類		
3	精神症状2	精神機能の障害と精神症状		
4	精神科診断学1	精神障害の診断と評価		
5	精神科診断学2	脳器質性精神障害		
6	症状性精神障害	精神症状を伴う身体疾患		
7	精神作用物質による精神および行動の障害	薬物依存		
8	精神疾患1	てんかん		
9	精神疾患2	統合失調症		
10	精神疾患3	気分(感情)障害		
11	精神疾患4	神経症性障害		
12	成人のパーソナリティ	行動・性の障害		
13	コンサルテーション	リエゾン精神医学		
14	精神障害の治療とリハビリテーション	精神科リハビリテーション		
15	精神保健医療と福祉、職業リハ	精神保健福祉法		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
『学生のための精神医学 第3版』太田保之・上野武治編		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
小児科学		作業療法科/2年	2022/前期	講義 (一部、同時双方向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	新谷尚久(実務経験あり)
授業の概要				
小児の医療とリハビリテーションをめぐる事柄全般について学習する。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
小児の発達について理解し、正常発達の評価ポイントを理解し、説明できる。 小児で代表的な疾患や臨床症状について理解し、説明できる。				
回	テーマ	内容		
1	小児科学概論	概論		
2	診断と治療の概要	診断と治療の概要		
3	新生児・未熟児疾患	先天異常と遺伝病		
4	先天異常と遺伝病	種々の疾患と症状		
5	神経・筋・骨系疾患	種々の疾患と症状		
6	循環器疾患	種々の疾患と症状		
7	呼吸器疾患	種々の疾患と症状		
8	感染症、消化器疾患	種々の疾患と症状		
9	内分泌・代謝疾患	種々の疾患と症状		
10	血液疾患	種々の疾患と症状		
11	免疫・アレルギー疾患	種々の疾患と症状		
12	腫瘍性疾患	種々の疾患と症状		
13	習癖・睡眠関連病態・心身医学的疾患・虐待	種々の疾患と症状		
14	重症心身障害児	種々の疾患と症状		
15	眼科・耳鼻科的疾患	種々の疾患と症状		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
標準理学療法学・作業療法学(専門基礎分野)「小児科学」第5版		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
臨床医療学 (栄養・医用画像・薬理学・救命救急)		作業療法科/2年	2022/後期	講義 (一部、同時双方向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数 (時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位 (30時間)	必須	中島・石田・他(実務経験あり)
授業の概要				
理学療法士・作業療法士の臨床実習や就職後において必要な栄養学の知識、脳や運動器のMRI・CT・レントゲン画像の読影、救急救命について学習する。【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・内科疾患におけるリスク管理、栄養指導がわかる。 ・脳画像や運動器画像の正常画像の読影ができる。異常所見により予後を予測する。 ・患者に処方された薬の効用、副作用、リスク管理を理解する。 ・救急時の対応について理解する (AED含む)。 				
回	テーマ	内 容		
1	糖尿病の栄養学			
2	脳血管疾患の栄養学			
3	内科疾患における栄養学			
4	正常画像所見 1	X-P, MRI、CT, エコーの正常画像の読影 (運動器)		
5	正常画像所見 2	X-P, MRI、CTの正常画像の読影 (脳、内臓)		
6	疾患別画像所見 1	運動器疾患 (骨折、筋・靭帯断裂)		
7	正常画像所見 2	脳血管疾患 (脳梗塞、脳出血) 部位と症状		
8	正常画像所見 3	呼吸・循環器疾患		
9	薬理学 1	リスク管理に必要な薬剤の知識 1		
10	薬理学 2	リスク管理に必要な薬剤の知識 2		
11	薬理学 3	リスク管理に必要な薬剤の知識 3		
12	薬理学 4	リスク管理に必要な薬剤の知識 4		
13	救急救命 1	AEDについて		
14	救急救命 2	一次救命処置		
15	救急救命 2	一次救命後の対応		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
特定の教科書は使用せず		期末試験	100.0%	

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
公衆衛生学		作業療法科/4年	2022/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	中山吉宣(実務経験有)
授業の概要				
人々の基本的な生活と人間のあり方、健康と公衆衛生、健康指標と予防、生活環境の保全について学習する。【実務経験】保健所勤務(獣医師)				
授業終了時の到達目標				
理学療法士・作業療法士として、障害に対するリハビリテーションの担い手となるだけでなく、人が生きる全体像をとらえる視点を持ち、予防の概念に基づき、健康増進へ貢献できる医療人となる。				
回	テーマ	内 容		
1	公衆衛生と健康の概念	公衆衛生と健康の概念		
2	疫学	疫学指標の算出、疫学研究と倫理		
3	保健統計	人口動態統計(出生、死産、婚姻、離婚、死亡、死因分類、)		
4	医の倫理と患者の人権	医の倫理と患者の人権		
5	終末期医療と死の概念	終末期医療と死の概念		
6	医療法と医療体制	医療法と医療体制		
7	社会保障と医療経済	社会保障と医療経済		
8	成人保健と健康増進	成人保健の現状と生活習慣病、リスク因子、予防対策		
9	母子保健	親子保健対策、関連法規、		
10	高齢者保健	高齢者と介護保険		
11	障害者福祉、精神保健福祉	精神保健の実際、健康関連行動		
12	感染症対策	感染症の流行状況、主たる感染症、感染症対策、検疫		
13	食品保健と栄養	食生活、食行動、食環境、身体活動と運動		
14	学校保健、産業保健	学校保健、産業保健		
15	環境保健、国際保健	環境衛生(生態系、地球希望の環境、公害、帰校、廃棄物処理、放射線)		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
公衆衛生がみえる: MEDIC MEDIA		期末試験	100.0%	

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
社会保障論		作業療法科/4年	2022/後期	講義（一部同時双方向型遠隔授業）
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（15時間）	必須	梶直美（実務経験あり）
授業の概要				
本講義では、社会福祉全般についての理解を深め、社会福祉の歴史、理念、社会福祉制度、社会保障、社会福祉援助技術などの概要を述べる。【実務経験：病院勤務】				
授業終了時の到達目標				
社会保障の目的について理解できる 社会保障制度について理解できる。				
回	テーマ	内容		
1	概論	社会保障とは		
2	社会保障制度	範囲と理念		
3	社会保険	構造		
4	社会扶助	構造		
5	国民年金	実態と近年の動向		
6	厚生年金保険			
7	共済年金			
8	まとめ			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
リハビリテーション概論		作業療法科/1年	2022/前期	講義 (一部同時双方向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	木下(実務経験あり)
授業の概要				
自己学習とグループワークを中心としたアクティブラーニングを通して、医療職に必要な心構え・学習態度を身につけるとともに、リハビリテーションについての基礎的な知識や考え方を学ぶ授業となる。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
知識：リハビリテーションの概念、定義を理解する リハビリテーションに必要な専門基礎学問を理解する 技術：自己学習やグループワークを通して医療職としての学び方を習得する 態度：専門職として必要な基本的態度、習慣について自らの行動規範を持ち、行動できる				
回	テーマ	内容		
1	リハビリテーションとは何か①	リハビリテーションの歴史、定義		
2	リハビリテーションとは何か②	事例を通して考えるリハビリテーション		
3	リハビリテーションの理念	障害者の復権、ノーマライゼーション、自立生活運動		
4	リハビリテーションの目標	ADLとQOL、健康		
5	障害受容	ヒトが病気や障がいを持ったとき		
6	リハビリテーション専門職の役割①	理学療法士・作業療法士		
7	リハビリテーション専門職の役割②	他職種との役割		
8	チーム医療	チーム医療をめぐる動向 他職種連携の基本・原則・課題		
9	障害の階層とアプローチ①	ICIDH		
10	障害の階層とアプローチ②	ICF		
11	ライフステージにおける障害特性	ライフサイクル、乳児・児童・青年・成人・老年期		
12	リハビリテーション関連法規	医療法、福祉六法、障害者総合支援法など		
13	回復段階によるリハビリテーション①	急性期・回復期		
14	回復段階によるリハビリテーション②	生活期		
15	リハビリテーション再考	まとめと復習		
教科書・教材		評価基準		評価率
配布資料		期末試験 課題・レポート		50.0% 50.0%
				その他

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
多職種連携		作業療法科/2年	2022/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(15時間)	必須	西潟 央(実務経験あり)
授業の概要				
医療および地域リハビリテーションに関わる様々な職種との連携について学ぶ 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括ケアシステムについて理解する。 ・医療における他職種連携について理解する。 ・介護保険下での多職種連携について理解する。 				
回	テーマ	内 容		
1	地域包括ケアシステムについて			
2	地域ケア会議について			
3	ケアマネージャーについて			
4	MSWについて			
5	看護・介護との連携について考える	看護学生とのグループワーク		
6	看護・介護との連携について考える	看護学生とのグループワーク		
7	看護・介護との連携について考える	グループ発表		
8	看護・介護との連携について考える	グループ発表		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
作業療法概論 I		作業療法科/1年	2022/後期	講義 (一部同時双方向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数 (時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位 (30時間)	必須	梶・白瀬・木下・中川(実務経験有)
授業の概要				
作業療法領域全体を概説する。作業療法がどのような人たちに対し、どのようなことを目的として、どのような手段を用いて介入するのか、作業療法の専門性や役割、専門職としての作業療法士についての概要を学ぶ。作業療法を学ぶ上での出発点として位置付けられる科目である。また、MTDLPをとおして評価から統合と解釈、治療までの作業療法の流れを理解する。【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> 作業療法の基本的な考え方、枠組み、役割を理解し、説明ができる。 作業療法の対象者と活動領域を理解し、説明ができる。 				
回	テーマ	内容		
1	総論	作業療法の歴史・定義・法律・倫理		
2	国際生活機能分類からとらえる健康	ICF 多職種連携		
3	作業療法の理論①	6つの理論 生体力学モデル		
4	作業療法の理論②	作業科学 人間作業モデル		
5	身体障害分野の作業療法①	身体障害作業療法概論		
6	身体障害分野の作業療法②	身体障害作業療法 対象 脳血管・運動器		
7	精神障害領域の作業療法①	精神障害とは		
8	精神障害領域の作業療法②	精神障害領域の作業療法概論		
9	高次脳機能障害の作業療法	高次脳機能障害とは		
10	発達障害領域の作業療法①	肢体不自由児 脳性麻痺、先天性股関節脱臼、筋ジス		
11	発達障害領域の作業療法②	発達障害、定義、教育的リハ、就労支援		
12	高齢期領域の作業療法①	高齢期とは		
13	地域作業療法	通所リハ、地域包括センター、障害者総合支援法		
14	MTDLP①			
15	MTDLP②			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
長崎重信 作業療法学概論 改訂第2版 メジカルビュー社		期末試験	100.0%	総論5、身体障害25、精神障害20、高齢期20、発達障害15、地域15

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
作業療法概論Ⅱ		作業療法科/2年	2022/前期	講義(一部同時双方向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	梶(実務経験有)
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> ・理論には、関連用語があるため、用語を含めた理論背景を学ぶ ・理論の適応範囲や対象を知る ・理論を5W1Hで理解する 				
授業終了時の到達目標				
理論を学び、実践で活用できるように理解することにより、作業療法実践の質の向上につなげる。				
回	テーマ	内容		
1	総論	作業療法のモデル		
2	人間作業モデル	概論		
3	人間作業モデル	事例		
4	COPM	検査方法 検査体験		
5	カナダ作業モデル DVD: コレス骨折	グループ発表①		
6	川モデル DVD: 認知症	グループ発表②		
7	CI療法	グループ発表③		
8	認知行動療法	グループ発表④		
9	認知機能リハ	グループ発表⑤		
10	生体力学モデル	グループ発表⑥		
11	その他の理論	グループ発表⑦⑧		
12	その他の理論	グループ発表⑨⑩		
13	MTDLP	事例①		
14	MTDLP	事例②		
15	MTDLP	事例③		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
小川真寛ら編集 作業療法理論の教科書 メジカルビュー		期末試験 発表 ワークシート	80.0% 10.0% 10.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態	
基礎作業学Ⅰ（作業分析）		作業療法科/1年	2022/後期	演習（一部同時双方向型遠隔授業）	
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員	
90分	15回	1単位（30時間）	必須	梶（実務経験有）	
授業の概要					
<p>作業を手段として用いる作業療法にとって、作業の適切な利用が求められる。作業がどのような治療的意味を持つのか、どのように治療的に用いられるのか、その特性等について知ることは作業療法を実施する上で重要である。また、治療的手段として用いられる作業種目を多く知ることは、その選択の幅を広げる。本講義では実際に作業を体験し、作業工程や作業の持つ特性について理解を深めていくことを主題とする。【実務経験】病院勤務</p>					
授業終了時の到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・作業・作業活動の意味について理解を深める。 ・治療的手段としての作業を身体的（運動学的）・精神的側面から学び理解する。 ・作業に必要な用具や材料および作業工程を理解できる。 ・基本的な作業活動の工程分析の視点を学び理解する。 ・作業を行う上での注意事項について理解できる。 					
回	テーマ	内容			
1	オリエンテーション	作業の定義、分類、治療的意味等			
2					
3					作業分析の概要
4					包括的作業分析
5	作業活動 1	罫線描きの動作分析			
6	作業活動 2	罫線描きの動作分析			
7	作業活動 3	革細工（スタンピング）			
8	作業活動 4	革細工（スタンピング）			
9	作業活動 5	革細工（スタンピング）			
10	作業活動 6	革細工（スタンピング）			
11	作業活動 7	陶芸			
12	作業活動 8	陶芸			
13	作業活動 9	陶芸			
14	作業活動 10	陶芸			
15	作業活動 11				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他	
・つくる・あそぶを治療にいかす 作業活動実習マニュアル 第2版：古川 宏 監修, 医歯薬出版、2012		課題・レポート	100.0%	実技中心の科目です。動きやすく、汚れても良い服装で臨んでください。	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
基礎作業学Ⅱ (技術・演習)		作業療法科/2年	2022/前期	講義 (一部同時双方向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	木下(実務経験あり)
授業の概要				
<p>作業療法士には、作業の適切な利用が求められる。 手段や目的として用いる作業を多角的な視点から分析し、対象者により適した作業療法を実施できるように、体験やグループワークを通して作業・作業療法の視点からの臨床思考過程を学び、実践経験を積む。【実務経験】病院勤務</p>				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・体験を通して作業の意味について考え、作業分析し、対象者にとっての作業の意味について考えることができる。 ・作業に必要な道具や材料、作業工程、注意事項について説明できる。 ・対象者に合った作業選択や段階付けについて考えることができる。 ・心理学やライフステージ、集団などの視点からも作業について考えることができる。 				
回	テーマ	内容		
1	基礎作業学概論①	作業とは何か		
2	基礎作業学概論②	包括的作業分析と限定的作業分析		
3	作業の段階付けと指導法	段階付けの視点と発想		
4	作業特性の理解と活用①	箱作り		
5	作業特性の理解と活用②	貼り絵		
6	作業特性の理解と活用③	編み物		
7	作業と手順	トップダウンアプローチとボトムアップアプローチ		
8	作業療法士に求められる能力	事例を通して考える作業療法士の能力		
9	ライフステージと作業	ライフステージに応じた作業の視点		
10	個人と集団の分析	特徴と効果		
11	作業と心理	行動学習		
12	作業提供①	演習(情報収集)		
13	作業提供②	演習(計画と準備)		
14	作業提供③	演習(実践)		
15	作業提供④	演習(振り返り)		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
古川宏：作業活動実習マニュアル，第2版，医歯薬出版 濱口豊太：基礎作業学，第3版，医学書院		課題・レポート	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
基礎作業学Ⅲ		作業療法科/3年	2022/後期	講義 (一部、双方向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	中川 等史(実務経験有)

授業の概要

本講義ではレクリエーション活動の社会的意義、レクリエーションの援助者としての役割について理解させる。また、レクリエーションサービスのポイントを理解し、レクリエーション計画の作成能力および実践援助能力の習得を目指す。【実務経験】病院勤務

授業終了時の到達目標

生活行為向上マネジメント(MTDLP)の概要が理解できる。
MTDLPの枠組みからレクリエーションと余暇活動、社会参加との関連が理解できる。

回	テーマ	内容
1	MTDLPの概要1	作業の連続性
2	MTDLPの概要2	高齢者の実態
3	MTDLPの概要3	生活行為障害とは
4	MTDLPの使い方1	評価
5	MTDLPの使い方2	事例紹介
6	MTDLPの使い方3	模擬事例に対する評価
7	MTDLPの使い方4	評価使用における注意事項
8	レクリエーション	目的・意義
9	レクリエーションの種類	レクリエーションの分類
10	MTDLPと余暇活動	MTDLPと余暇活動の関連について
11	MTDLPと社会参加	MTDLPと社会参加の関連について
12	ICFとMTDLP1	ICFの復習
13	ICFとMTDLP2	ICFとMTDLPの違い・類似点
14	ICFとMTDLP3	事例紹介1
15	ICFとMTDLP4	事例紹介2

回	テ ー マ	内 容		
16	MTDLPの活用1	事例検討1		
17	MTDLPの活用2	事例検討2		
18	MTDLPの活用3	事例検討3		
19	MTDLPの活用4	事例検討4		
20	MTDLPの活用5	事例検討5		
21	MTDLPの効果判定1	エビデンスの基礎		
22	MTDLPの効果判定2	現在までのMTDLPの成果		
23	作業療法と文化1	東洋文化の特徴		
24	作業療法と文化2	西洋文化の特徴		
25	クライアント中心の実践1	クライアント中心とは		
26	クライアント中心の実践2	関係モデル		
27	レクリエーションの応用1	模擬事例に対する治療計画の立案		
28	レクリエーションの応用2	模擬事例に対する治療の実施		
29	レクリエーションの応用3	模擬事例に対する治療効果判定		
30	まとめ、振り返り	復習		
	教科書・教材	評価基準	評価率	その他
	作業療法マニュアル66 生活行為向上マネジメント改訂第3版 日本作業療法士協会	課題・レポート	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
研究方法論Ⅰ（抄読）		作業療法科/2年	2022/後期	講義 （一部、同時双方型遠隔授業）
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	丁子（実務経験有）
授業の概要				
科学的根拠に基づいて意思決定を行うために、客観的な立場から批判的にデータを読み解く視点を習得する。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・クリティカルリーディングの視点を理解する。 ・質的研究、量的研究、混合研究の違いを理解できる。 ・EBMを理解できる。 				
回	テーマ	内 容		
1	文献検索の仕方、文献レビュー			
2	エビデンスの分類			
3	診断の指標			
4	研究倫理			
5	質的研究	M-GTA		
6	質的研究	内容分析		
7	質的研究	KJ法		
8	混合研究、質的研究	テキストマイニング		
9	文献抄読			
10	文献抄読			
11	事例研究	症例報告		
12	事例研究	事例研究		
13	量的研究			
14	量的研究			
15	量的研究			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
山本澄子：すぐできるリハビリテーション統計（第2版）．南江堂、2019 丁子雄希：作業療法士のための超実践シングルケースデザイン．金芳堂、2020		課題・レポート	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
研究方法論Ⅱ（方法）		作業療法科/2年	2022/後期	講義 （一部、同時双方型遠隔授業）
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	丁子（実務経験あり）
授業の概要				
医療専門家である理学療法士にとって、対象者の問題や治療課題を明確にして、改善・解決する能力を高めることは最大の責務である。また、理学療法士自身および理学療法学の発展に資するためには、日々の業務の中から問題意識を明確にして、それを検証し、怪傑への努力が求められる。研究方法論を通じて、科学的思考に基づいて真理を追究する姿勢を育成する。そのためには、理学療法士が研究を行うことの意義と目的から始まり、具体的な研究方法について学び、研究する段階である「研究計画書」の作成までを行う。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 作業療法士として研究する意義を説明できる。 2. 研究論文を読み、抄録用紙に記載し、まとめることができる。 3. 抄読会を企画し、座長や口頭発表をすることができる。 4. 研究デザインの種類を説明でき、倫理規定にそった研究計画書を作成できる。 				
回	テーマ	内容		
1	研究倫理指針とは	研究における倫理の意味づけを教授する。対象者・患者の倫理的配慮、利益相反について概説する。		
2	倫理指針①	実際に学会の倫理指針を確認しながら、条項の意味していることを明確に説明する。		
3	倫理指針②	ラット等の哺乳動物には動物倫理規定が低用されるが、通常の両生類は倫理規定はなが、背名の尊重に配慮する。		
4	抄読会（抄録用紙）	抄録用紙（規定用紙を配付）に記載し、発表する形態を提示する。		
5	抄読会（スライド）	文献抄読後に概要をpowerpointにまとめ、発表する形態を提示する。		
6	抄録用紙の記載①	各自が図書室の雑誌（研究論文）を読んで抄録用紙に記載する		
7	抄録用紙の記載②	各自が図書室の雑誌（研究論文）を読んで抄録用紙に記載する。		
8	抄読会（発表）	抄読した文献の発表を行う。（発表して資料の呈す津：電子データ）		
9	研究論文の執筆の仕方①	実際の研究内容を紹介し、研究論文の執筆の仕方を説明する。		
10	研究論文の執筆の仕方②	執筆の手順と執筆時の規定を確認する。		
11	研究計画書の作成の仕方	基本的な研究計画書の作成の仕方を教授する。		
12	研究計画書の作成①	各班で研究課題をきめ、研究領域の論文を収集する。		
13	研究計画書の作成②	研究方法の手順を票を作成する。		
14	研究計画書の作成③	「研究計画書」が倫理指針に沿った内容であることを確認し、倫理委員会に申請できる資料を作成する。提出は、紙面と電子データとする。		
15	研究ノートの記述 まとめ	臨床介入試験・動物実験・培養細胞実験の経過を第三者にも説明できるよう記載することの重要度で提示する。		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
参考図書 標準理学療法学 理学療法研究法 リハ研究の進め方・まとめ方		課題・レポート	100.0%	課題（抄録・研究計画書）は授業前を提出期限とし、提出期限を超過したものは受け取らない。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
作業療法管理学 I		作業療法科/2年	2022/後期	講義 (一部、同時双方型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	中川(実務経験有)
授業の概要				
作業療法士における職業倫理や職場における管理業務等について学ぶ【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・職業倫理を身につけることができる。倫理観を持って病院実習に臨む基本ができるようになる ・ハラスメントや守秘義務・個人情報管理の理解、コミュニケーションスキルを身につける ・職場管理業務を学び、診療の流れや記録、備品管理等の業務理解ができる。 				
回	テーマ	内容		
1	オリエンテーション	作業療法管理学とは		
2	常識とマナー	医療現場での常識やマナーについて学ぶ		
3	医療機関の安全管理	医療現場での安全管理について学ぶ(健康チェックやリスク管理)		
4	守秘義務	医療現場での守秘義務について		
5	個人情報	医療機関での個人情報の管理について		
6	情報管理	医療機関での情報の管理について		
7	記録と報告	医療現場での記録及び報告について(電子カルテなど)		
8	倫理とハラスメント	医療場面での倫理やハラスメントについて		
9	コミュニケーションスキル	職場でのコミュニケーションスキルについて		
10	多職種連携	多職種連携とは		
11	クリニカルクラークシップ	診療参加型臨床実習について		
12	クリニカルリーズニング	クリニカルリーズニングとは		
13	MTDLPとは	生活行為向上マネジメントについて		
14	ストレスチェック	職場でのストレスチェックについて		
15	職場管理	医療現場での管理業務とは		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> ・OT臨地実習ルートマップ:メジカルビュー社(齋藤佑樹・菊池恵美子著) ・作業療法学ゴールドマスターテキスト 作業療法学概論(改訂第2版):メジカルビュー社(長崎重信・里村恵子) 		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
作業療法管理学Ⅱ (職業倫理・職場管理)		作業療法科/3年	2022/後期	講義 (一部、同時双方向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	中川等史(実務経験あり)
授業の概要				
作業療法士として勤務する臨床(病院・地域)、教育、研究領域における倫理、管理について、ディスカッションを含めながら理解を深める。【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
1. 作業療法の実手順について理解し、説明できる。2. 作業療法士の専門職倫理の意義を理解し、説明できる。3. 職場の組織について理解し、説明できる。4. 職場管理(診療記録と書類管理)について理解し、説明できる。5. 作業療法実施時の安全管理や危機管理を理解し、実施できる。6. 作業療法機器の配置計画や管理について理解し、説明できる。7. 他の医療職種との業務調整、連携の重要性を理解し、説明できる。8. 職場倫理(ハラスメント)について理解し、説明できる。9. 医療保険制度、介護保険制度について理解し、説明できる。				
回	テーマ	内容		
1	管理の実際①	作業療法管作業の職業倫理と職場管理の概念と構造を教授する。		
2	管理の実際②	医学・医療の相違、医療と福祉の相違、哲学と倫理と法律や道徳の相違などの語句の意味を説明する。		
3	作業療法士の専門職倫理の意義	「ヒポクラテスの誓い」から「PT協会の倫理規定」の経過と意義を説明する。		
4	作業療法士の職業倫理	対象者(患者)の権利・尊厳の意義を説明する。守秘義務、個人情報保護、インフォームドコンセント(アセント)の意義を説明する。		
5	作業療法業務の管理	医師の処方のもと作業療法を実施し、診療録を記載する義務があり、患者に対して守るべきモラルを教授する。		
6	作業療法士の労務管理	職場風土やハラスメント防止に対する基本的な考え方を説明する。		
7	医療機能の分化とチーム医療	近代の医療機能が専門分化されてきているので、専門職連携・統合を目指すシームレス医療が重要になってきていることを教授する。		
8	組織と改善	組織図の在り方、事業部制など組織構造ならび組織内の在り方の見直し、改善について説明する。		
9	保健・医療・福祉を取り巻く諸制度とマネジメント	医療保険制度・介護保険制度を通して、作業療法を実施していることを紹介する。		
10	医療安全管理の重要性	医療専門職種として、作業療法室内や作業療法領域で使用している機器の保全・管理は責務であることを教授する。		
11	疾患別・病期別の作業療法マネジメント	いかなる疾患であれ、作業療法を実施するには障害像を把握することが重要である。そのうえで、疾患が有する特徴的なリスクを回避しながら作業療法を遂行することが重要であることを教授する。		
12	急性期病院での作業療法マネジメント	疾患の急性期は病態が安定せず、患者の不安や意識清明でない中の作業療法も遂行されるので、細心の注意を払うことの重要性を具体例を通して解説する。		
13	回復期病院での作業療法マネジメント	回復期リハビリテーション病棟での作業療法は、在宅復帰や社会参加を目指して活動能力の向上を支援する上での注意点を具体例を通して解説する。		
14	生活期を支援する作業療法マネジメント(介護老人保健施設等)	疾患特有の合併症に向き合いながら社会参加をしている障がい者や高度の障害により在宅医療を受けながら社会参加している者への対応の仕方を具体例を通して解説する。		
15	組織行動論	実習や職場で働き、組織の役割を果たすための社会的、心理的行動を考えていく。		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
作業療法管作業 編著者代表; 奈良勲, 医歯薬出版		定期試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
作業療法評価学概論 I		作業療法科/1年	2022/後期	演習(一部同時双方向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	白瀬雅登 (実務経験あり)
<p>作業療法とは、どのように実践していくのかを知り、治療に結びつく評価の仕方を学ぶ。 【実務】病院勤務</p>				
授業終了時の到達目標				
作業療法評価の概念を理解し、実践に結びつく知識を身に着ける				
回	テーマ	内容		
1	総論	作業療法評価とは		
2	各論①	ICF		
3	各論②	ICF		
4	各論③	ICF		
5	各論④	作業療法の流れ		
6	各論⑤	作業療法の流れ		
7	各論⑥	観察と面接		
8	各論⑦	観察の仕方		
9	各論⑧	面接の仕方		
10	各論⑨	MTDLP		
11	各論⑩	MTDLP		
12	各論⑪	MTDLP		
13	各論⑫	MTDLP		
14	各論⑬	MTDLP		
15	各論⑭	MTDLP		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・能登真一他:標準作業療法学 作業療法評価学 第3版、医学書院		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
作業療法評価学概論Ⅱ (含む画像評価)		作業療法科/2年	2022/前期	講義(一部同時双方向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	白瀬雅登(実務経験有)

授業の概要

画像読影の基礎知識を身につける。
また作業療法評価学概論Ⅰを受けて、評価学全般の基礎を学ぶ。
【実務経験】病院勤務

授業終了時の到達目標

- ・MRIとCTの違いが理解できる。
- ・領域共通の評価方法を理解し、列挙できる。

回	テーマ	内容
1	脳画像読影の基礎知識1	脳解剖の基礎
2	脳画像読影の基礎知識2	MRIとCTの違い
3	脳画像	脳梗塞
4	脳画像	脳出血
5	脊柱画像	ヘルニア、圧迫骨折
6	上肢・下肢画像	骨折
7	内臓画像	肺炎
8	協調性検査	協調性検査
9	脳神経検査	脳神経検査法
10	排泄機能評価	排泄機能評価
11	上肢機能検査	STEF
12	姿勢反射検査1	原始反射
13	姿勢反射検査2	姿勢反射
14	QOL評価	QOL、興味、役割
15	総括	

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
中島雅美ら(編集):PT/OT基礎から学ぶ 画像の読み方 第3版国試画像問題攻略 能登真一ら(編集):標準作業療法学 作 業療法評価学 第3版 医学書院	実習・実技評価 課題・レポート	50.0% 50.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
身体機能評価学Ⅰ		作業療法科/2年	2022/前期	講義(一部同時双方向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	丁子・白瀬(実務経験有)

授業の概要

作業療法評価学概論Ⅰ・Ⅱを受けて、身体障害分野における評価方法を学ぶ。

【実務経験】病院勤務

授業終了時の到達目標

- ・疾患別の評価方法を列挙できる。
- ・関節可動域測定、筋力検査を正確に実施できる。

回	テーマ	内容
1	身体機能評価法概論	
2	脳血管障害の評価1	脳血管障害の評価方法概論
3	脳血管障害の評価2	各種検査法
4	頭部外傷の評価	
5	脊髄損傷の評価1	脊髄損傷の評価方法概論
6	脊髄損傷の評価2	各種検査法
7	末梢神経の評価	
8	関節リウマチ・全身性エリトマトーデス・多発性筋炎の評価	
9	神経疾患の評価	ギランバレー、パーキンソン病、ALSなど
10	内部疾患の評価	心臓機能障害、呼吸器機能障害、悪性腫瘍
11	関節可動域測定1	上肢
12	関節可動域測定2	上肢
13	関節可動域測定3	上肢
14	関節可動域測定4	上肢
15	関節可動域測定5	手指

回	テ ー マ	内 容		
16	関節可動域測定 6	手指		
17	関節可動域測定 7	体幹・下肢		
18	関節可動域測定 8	体幹・下肢		
19	関節可動域測定 9	体幹・下肢		
20	関節可動域測定 10	体幹・下肢		
21	筋力測定 1	上肢		
22	筋力測定 2	上肢		
23	筋力測定 3	上肢		
24	筋力測定 4	上肢		
25	筋力測定 5	手指		
26	筋力測定 6	手指		
27	筋力測定 7	体幹・下肢		
28	筋力測定 8	体幹・下肢		
29	筋力測定 9	体幹・下肢		
30	筋力測定 10	体幹・下肢		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
能登真一ら（編集）：標準作業療法学 作業療法評価学 第3版 医学書院		実習・実技評価	100.0%	OSCEをもとに実技試験を行います。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
身体機能評価学Ⅱ		作業療法科/2年	2022/後期	演習 (一部、同時双方型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	白瀬(実務経験有り)

授業の概要

各種疾患に対する身体機能の評価を、講義や実技を通して学ぶ。特に、評価項目の選択・実施を中心に授業を展開していく。【実務経験】病院勤務

授業終了時の到達目標

各種疾患に対して、適切な評価を選択できる。また、その評価を選んだ理由を説明することができる。模擬患者に対して、説明を行い、同意を得たうえで、適切に評価を実施することができる。

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション、面接	
2	脳血管障害(1)	各種評価の確認
3	脳血管障害(2)	各種評価の確認
4	脳血管障害(3)	症例検討
5	脳血管障害(4)	症例検討
6	脳血管障害(5)	症例検討
7	脊髄損傷(1)	各種評価の確認
8	脊髄損傷(2)	各種評価の確認
9	脊髄損傷(3)	症例検討
10	脊髄損傷(4)	症例検討
11	Parkinson病(1)	各種評価の確認
12	Parkinson病(2)	各種評価の確認
13	Parkinson病(3)	症例検討
14	Parkinson病(4)	症例検討
15	下肢の骨折(大腿骨頸部骨折) (1)	各種評価の確認

回	テ ー マ	内 容		
16	下肢の骨折（大腿骨頸部骨折） （2）	各種評価の確認		
17	下肢の骨折（大腿骨頸部骨折） （3）	症例検討		
18	下肢の骨折（大腿骨頸部骨折） （4）	症例検討		
19	脊椎の骨折（腰椎圧迫骨折）（1）	各種評価の確認		
20	脊椎の骨折（腰椎圧迫骨折）（2）	各種評価の確認		
21	脊椎の骨折（腰椎圧迫骨折）（3）	症例検討		
22	脊椎の骨折（腰椎圧迫骨折）（4）	症例検討		
23	上肢の末梢神経損傷（1）	各種評価の確認		
24	上肢の末梢神経損傷（2）	各種評価の確認		
25	上肢の末梢神経損傷（3）	症例検討		
26	上肢の末梢神経損傷（4）	症例検討		
27	関節リウマチ（1）	各種評価の確認		
28	関節リウマチ（2）	各種評価の確認		
29	関節リウマチ（3）	症例検討		
30	関節リウマチ（4）	症例検討		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
能登真一ら（編集）：標準作業療法学 作業療法評価学 第3版 医学書院		期末試験	100.0%	実習の際は、動きやすい服装で参加してください。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
精神機能評価学		作業療法科/2年	2022/後期	講義 (一部同時双方向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	木下(実務経験あり)
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> ・精神医療および作業療法の歴史と流れを理解し、精神障害者に対する作業療法の理念や基本的な視点・知識・態度を学習する。 ・精神科作業療法における評価の目的や意義を理解し、評価技術の習得や地域生活に向けた臨床思考過程を学ぶ。【実務経験】病院勤務 				
授業終了時の到達目標				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神医療と精神科作業療法の歴史や現状を理解する。 2. 精神科における評価の流れを理解し、様々な評価の視点や目的を理解し、説明することができる。 3. 観察・面接・各種評価法を理解し、実践できる。 4. 個人情報にも留意しながら、評価した結果を適切に記録として残すことができる。 				
回	テーマ	内容		
1	精神障害領域の作業療法概論	作業療法の対象、作業とこころの関係		
2	精神科作業療法の特徴	作業療法士の役割		
3	精神科領域の基礎理論・関連療法	精神分析学, 認知行動療法, 来談者中心療法, 生活技能訓練(SST)など		
4	評価の流れ	評価の特性と全体像		
5	記録と個人情報	記録方法と個人情報の取り扱い		
6	情報収集	情報収集の目的と方法		
7	観察法①	観察の目的と方法		
8	観察法②	演習(観察と記録)		
9	面接法①	面接の意義, 原則		
10	面接法②	演習(情報収集面接)		
11	面接法③	演習(質問紙を用いた面接)		
12	面接法④	構成的作業・投影的作業を用いた面接		
13	面接法⑤	作業面接(箱作り法)		
14	対象者とのコミュニケーション	傾聴と共感		
15	検査法①	評価尺度の活用と留意点		

回	テ ー マ	内 容		
16	検査法②	様々な評価尺度		
17	集団における評価	評価の視点		
18	状態像による評価	医学的視点からの評価		
19	回復段階に応じた評価①	急性期, 回復期		
20	回復段階に応じた評価②	施設内維持期, 長期在院者		
21	回復段階に応じた評価③	地域生活期		
22	評価のまとめ①	評価計画		
23	評価のまとめ②	全体像の把握と解釈		
24	目標設定	目標設定の視点と治療への展開		
25	精神医療と精神科作業療法の歴史	精神保健医療の現状と課題		
26	行動制限	隔離・身体拘束		
27	疾患別の評価①	統合失調症		
28	疾患別の評価②	気分障害		
29	疾患別の評価③	その他の疾患		
30	事例検討	統合失調症例		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> ・作業療法ゴールドマスター・テキスト 精神障害作業療法学 改定第3版. ・標準作業療法学 作業療法評価学 第3版. ・標準理学療法学・作業療法学 精神医学 第4版. 		期末試験 課題・レポート 実習・実技評価	50.0% 10.0% 40.0%	<ul style="list-style-type: none"> ・精神医学や心理学で学習した内容も深く関連するため事前に復習しておくこと. ・ペアワークやグ

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
高次脳機能評価学		作業療法科/2年	2022/前期	講義 (一部同時双方向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数 (時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位 (30時間)	必須	梶 直美 (実務経験あり)

授業の概要

高次脳機能の評価方法を身に着ける【実務経験】病院勤務

授業終了時の到達目標

高次脳機能の評価の目的と方法を理解し、患者にあった評価を選択できるようにする

回	テーマ	内容
1	高次脳機能障害復習	DVDで復習
2	検査法	高次脳機能スクリーニング検査
3	検査法	TMT-A, B
4	検査法	かな拾いテスト
5	検査法	三宅式記銘力検査
6	検査法	レイの複雑図形
7	検査法	BIT
8	検査法	BADS
9	検査法	FAB
10	検査法	MMSE
11	検査法	HDS-R
12	検査法	コース立方体
13	検査法	リバーミード行動記憶検査
14	検査法	その他
15	検査法	その他

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
能登真一ら編集 作業療法評価学第3版 医学書院 川平和美編集 神経内科学第5版 医学書院 本田哲三編集 高次脳機能障害のリハビリテーション第3版 医学書院	実習・実技評価 期末試験	40.0% 60.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
発達機能評価学		作業療法科/2年	2022/前期	講義・演習（一部同時双方向型遠隔授業）
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（15時間）	必須	中川（実務経験有）
授業の概要				
<p>子どもの障害特性を理解し、対象となる疾患や障害に対するの作業療法評価を概説し、病態、評価についての講義を行う。基本的な評価手法を紹介し、主要な評価については演習を通して学習する。 【実務経験】病院勤務</p>				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・面接を行ううえでの留意点を説明できる。 ・発達を評価する検査名を列挙し、その特徴を説明できる。 ・感覚統合の発達モデルについて説明できる。 ・行動を評価する検査名を列挙し、その特徴を説明できる。 				
回	テーマ	内容		
1	発達過程作業療法における家族との面接と情報収集・発達検査	面接技術や情報集項目、発達検査の種類について		
2	発達全般をを評価する検査・運動機能評価	各種検査の内容、マイルストーン、脳性麻痺児の評価・検査表について		
3	感覚統合機能の評価・視知覚、視覚認知の評価	感覚統合にかかわる検査、視知覚発達検査、視覚認知評価について		
4	知能・認知機能の評価、行動評価	知能検査各種、行動評価にかかわる検査各種		
5	作業遂行・身辺自立の評価	ADL評価表各種、AMPS、ESI		
6	検査実習 1	知能検査実習		
7	検査実習 2	視知覚検査、SM式検査		
8	検査実習 3	JMAP		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
能登真一他編：標準作業療法学 作業療法評価学		期末試験 実習・実技評価	70.0% 30.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
高齢期評価学		作業療法科/2年	2022/後期	講義 (一部、同時双方型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	白瀬(実務経験有り)
授業の概要				
講義や実技を通して、高齢期障害の特徴や各種評価の特性を学ぶ。また、症例検討を通して、患者に応じた評価の選択を練習していく。【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
高齢期障害の特徴を理解したうえで、適切に評価項目を選択できる。また、その評価を選択した理由を説明できる。				
回	テーマ	内容		
1	高齢期障害とは	高齢期の健康状態、生理・心理的特徴、廃用症候群、体力、活動能力、意欲		
2	評価すべき項目			
3	認知・知的機能評価(1)	HDS-R、MMSE		
4	認知・知的機能評価(2)	国立精研式認知症スクリーニングテスト、柄澤式老人知能の臨床的判定基準		
5	認知・知的機能評価(3)	GBSスケール、N式老年者用精神状態尺度(NMスケール)		
6	認知・知的機能評価(4)	日本語版MoCA(MoCA-J)、MOSES、FAST		
7	認知症者の行動・心理症状(BPSD)に関する評価(1)	BPSDとは		
8	認知症者の行動・心理症状(BPSD)に関する評価(2)	認知症行動障害尺度(DBD)、日本語版NPI-Q、アルツハイマー病行動病理学尺度		
9	障害高齢者の日常生活自立度判定基準、認知症高齢者の日常生活判定基準			
10	老年うつ病スケール			
11	地域包括ケアシステムにおける認知症アセスメントシート、介護度			
12	アセスメント			
13	症例検討会(1)			
14	症例検討会(2)			
15	症例検討会(3)			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
能登真一ら(編集):標準作業療法学 作業療法評価学 第3版 医学書院		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
義肢学		作業療法科/2年	2022/後期	講義(演習も含む) (一部、同時双方型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	長谷川(実務経験あり)
授業の概要				
本講義では、切断と義肢について基礎理論から適合技術、日常生活の指導に至るまで教授する。 【実務経験】製作所勤務				
授業終了時の到達目標				
切断に対応した義肢が選択できる。 義肢を生活上で使用する上での注意点を理解することができる。				
回	テーマ	内 容		
1	概要	切断と義肢の歴史		
2	切断術	術式		
3	大腿義足①	大腿義足の名称、ソケット		
4	大腿義足②	膝継手、足継手		
5	大腿義足③	チェックアウト		
6	大腿義足④	適応基準		
7	下腿義足①	下腿義足の名称、ソケット		
8	下腿義足②	足継手		
9	下腿義足③	チェックアウト		
10	下腿義足④	適応基準		
11	股義足①	股義足の名称、ソケット		
12	股義足②	チェックアウト		
13	サイム～足部義足	チェックアウト		
14	術直後義肢装着法	チェックアウト		
15	まとめ	復習		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
『義肢装具学』千住秀明 監修 神陵文庫 『下肢切断の理学療法』細田多穂 編著 医歯薬出版 『義肢学』澤村誠志 編 医歯薬出版		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
装具学		作業療法科/2年	2022/前期	講義 (一部、同時双方型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	白瀬(実務経験有)
授業の概要				
装具の定義、目的、原理などについて学んだ後、構成する部品、装具の種類、適合判定について学習する。【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・装具の分類、機能、目的について述べるができる。 ・疾患や対象者に合った装具を選定できる。 				
回	テーマ	内容		
1	装具学総論	装具の目的、機能、対象疾患、分類 3点固定の原理 装具作成の流れ		
2	下肢装具の構成部品とチェックアウト	下肢装具の代表的な構成部品の名称と機能特徴 基本的なチェックアウトについて		
3	足継手の制御機構	足継手の種類と機構 足継手による足部関節の制限・制御メカニズム		
4	脳卒中片麻痺の装具	装具の名称と症状ごとの適応について 装具の機能的特徴とメカニズムについて		
5	対麻痺の装具	装具の名称と残存機能レベルに応じた適応について 装具の機能と特徴について		
6	整形外科的装具	装具の名称と症状ごとの適応について 装具の機能的特徴とメカニズムについて		
7	頸椎疾患・胸腰椎疾患の装具	装具の名称と症状ごとの適応について 装具の機能的特徴とメカニズムについて		
8	末梢神経障害の装具	装具の名称と症状ごとの適応について 装具の機能的特徴とメカニズムについて		
9	脊椎側彎症の装具	装具の名称と症状ごとの適応について 装具の機能的特徴とメカニズムについて		
10	小児疾患の装具	装具の名称と症状ごとの適応について 装具の機能的特徴とメカニズムについて		
11	関節リウマチの装具	装具の名称と症状ごとの適応について 装具の機能的特徴とメカニズムについて		
12	靴型装具 車椅子・杖	靴型装具の基本構造と機能特徴とメカニズムについて 車椅子・杖の種類と特徴 各部位の名称について		
13	スプリント作製①	作業療法士が作製するスプリントについて		
14	スプリント作製②	カックアップスプリント		
15	スプリント作製③	短対立スプリント		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
「PT/OTビジュアルテキスト 義肢装具学 第1版」高田治実 監修 羊土社		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
日常生活活動 I (総論)		作業療法科/2年	2022/前期	講義(一部同時双方向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	白瀬 雅登(実務経験有)
授業の概要				
講義や実技練習を通して、日常生活活動の概念と種類、基本動作から身辺動作、日常生活活動の特徴を理解する。また、各動作・活動の補助・誘導及び評価・治療計画の立案を学習する。【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
日常生活活動の概念と種類、基本動作から身辺動作、日常生活活動の特徴をふまえたうえで、各動作・活動の補助・誘導及び評価・治療計画の立案ができるようになる。				
回	テーマ	内 容		
1	日常生活活動の概念と種類(1)			
2	日常生活活動の概念と種類(2)			
3	基本動作(1)	寝返り、起き上がり		
4	基本動作(2)	立ち上がり		
5	基本動作(3)	移乗		
6	基本動作(4)	移動		
7	身辺動作(1)	食事		
8	身辺動作(2)	整容		
9	身辺動作(3)	更衣		
10	身辺動作(4)	排泄		
11	身辺動作(5)	入浴		
12	日常生活関連動作(1)	炊事、洗濯		
13	日常生活関連動作(2)	掃除、家屋管理		
14	日常生活関連動作(3)	買い物、公共交通機関の利用		
15	日常生活活動とリズム、社会参加			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
藤井浩美 ほか：クリニカル作業療法シリーズ 日常生活活動の作業療法, 中央法規出版株式会社, 2014 濱口豊太：標準作業療法学 専門分野 基礎作業学 第3版, 医学書院, 2017		期末試験	100.0%	実技の際は、アクセサリー類は外し、動きやすく服装で臨んでください。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
日常生活活動Ⅱ（各論）		作業療法科/2年	2022/前期	講義 （一部、同時双方型遠隔授業）
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	白瀬（実務経験有）

授業の概要

様々な障害を持つ人々に対する生活技術の支援方法等について学習します
【実務経験】病院勤務

授業終了時の到達目標

1. 日常生活活動における正常動作とその工程を理解・説明できる。
2. 日常生活活動における各動作を評価できる。
3. 日常生活活動障害について理解・説明できる。
4. 自助具について、その概要を理解し説明・発表することができる。
5. 作業療法の対象となりやすい代表的な疾患・障害と日常生活活動障害の関連性を理解・説明できる。

回	テーマ	内容
1	日常生活動作概論	日常生活活動Ⅰの振り返り ADL動作とは（科目の概要）
2	基本動作・工程分析	臥位、坐位、立位、起居動作
3	ADL動作・工程分析	食事
4	ADL動作・工程分析	整容
5	ADL動作・工程分析	更衣
6	ADL動作・工程分析	入浴・トイレ
7	ADL動作・工程分析	コミュニケーション 移乗・移動
8	IADL動作・工程分析	外出、買い物、通勤通学 洗濯、掃除
9	IADL動作・工程分析	調理 統合と解釈
10	自助具	概要
11	自助具	フィールドワーク 発表
12	疾患別ADL	脳血管障害
13	疾患別ADL	脊髄損傷
14	疾患別ADL	運動器疾患 高齢期
15	疾患別ADL	神経筋疾患 その他

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
【教科書】 ・クリニカル作業療法シリーズ 日常生活活動の作業療法 第1版：藤井浩美ら（編）、中央法規、2014 【参考書】 ・作業療法ガイドブック マスターテキスト 日常生活活動学（ADL）：木之瀬隆（編）、メイカル社、2016	課題・レポート	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
社会適応学 (IADL)		作業療法科/3年	2022/前期	講義
授業時間	回数	単位数 (時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位 (30時間)	必須	白瀬雅登 (実務経験あり)
授業の概要				
日常関連活動の概要と作業療法を知る				
授業終了時の到達目標				
日常関連活動の作業療法を理解する				
回	テーマ	内容		
1	総論			
2	第1章	「さまざまな生活態様に対する作業療法の有効性」		
3	第1章	「さまざまな生活態様に対する作業療法の有効性」		
4	第2章	「患者から生活者へと再起するための作業療法」		
5	第2章	「患者から生活者へと再起するための作業療法」		
6	第2章	「患者から生活者へと再起するための作業療法」		
7	第3章	「各疾患に対する生活基本動作・能力強化の作業療法」		
8	第3章	「各疾患に対する生活基本動作・能力強化の作業療法」		
9	第3章	「各疾患に対する生活基本動作・能力強化の作業療法」		
10	第4章	「各生活項目における能力・動作回復の作業療法」		
11	第4章	「各生活項目における能力・動作回復の作業療法」		
12	第4章	「各生活項目における能力・動作回復の作業療法」		
13	第5章	「より良い作業療法を行うための方法論」		
14	第5章	「より良い作業療法を行うための方法論」		
15	第5章	「より良い作業療法を行うための方法論」		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
生田宗博編 IADL第3版 作業療法の戦略・戦術・技術 三輪書店		期末試験 レポート・小テスト	60.0% 40.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
身体障害治療学Ⅰ		作業療法科/3年	2022/前期	講義 (一部、同時双方型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	丁子(実務経験有)

授業の概要

身体障害に対する作業療法について、各疾患別に評価・訓練について教授する。また模擬患者を通して評価から治療の一連の流れについて理解する。

【実務経験】病院勤務

授業終了時の到達目標

各疾患に対するリスクをふまえた上で、作業療法の評価から治療の一連の流れが理解できる。
疾患に応じた適切な評価方法が立案できる。
各評価結果からICFにまとめることができる

回	テーマ	内容
1	身体障害に対する基本的知識 ①	概論、身体障害の作業療法のプロセス
2	身体障害に対する基本的知識 ②	作業遂行アプローチ
3	身体障害に対する基本的知識 ③	運動学習
4	身体障害に対する基本的知識 ④	知覚再学習
5	身体障害に対する基本的知識 ⑤	関節可動域・筋力へのアプローチ
6	脳血管障害に対する作業療法①	疾患概要
7	脳血管障害に対する作業療法②	作業療法評価1
8	脳血管障害に対する作業療法③	作業療法評価2
9	脳血管障害に対する作業療法④	作業療法プログラム
10	脳血管障害に対する作業療法⑤	模擬患者との介入演習
11	脳血管障害に対する作業療法⑥	模擬患者との介入演習発表とフィードバック
12	脊髄損傷に対する作業療法①	疾患概要
13	脊髄損傷に対する作業療法②	作業療法評価1
14	脊髄損傷に対する作業療法③	作業療法評価2
15	脊髄損傷に対する作業療法④	作業療法プログラム

回	テーマ	内 容		
16	脊髄損傷に対する作業療法⑤	模擬患者との介入演習		
17	脊髄損傷に対する作業療法⑥	模擬患者との介入演習発表とフィードバック		
18	骨折に対する作業療法①	疾患概要（大腿骨頸部骨折、橈骨遠位端骨折、腰椎椎体骨折、上腕骨近位端骨折）		
19	骨折に対する作業療法②	作業療法評価		
20	骨折に対する作業療法③	作業療法プログラム		
21	骨折に対する作業療法④	模擬患者との介入演習		
22	変形性関節症に対する作業療法①	疾患概要（RA・変形性関節症）		
23	変形性関節症に対する作業療法②	作業療法評価		
24	変形性関節症に対する作業療法③	作業療法プログラム		
25	変形性関節症に対する作業療法④	模擬患者との介入演習		
26	末梢神経損傷・切断に対する作業療法①	疾患概要		
27	末梢神経損傷・切断に対する作業療法②	作業療法評価		
28	末梢神経損傷・切断に対する作業療法③	作業療法プログラム		
29	熱傷に対する作業療法①	疾患概要		
30	熱傷に対する作業療法②	作業療法評価・作業療法プログラム		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
山口昇、玉垣努：標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学（第3版）、医学書院、2005		課題・レポート 実習・実技評価	70.0% 30.0%	

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
身体機能評価学Ⅱ(吸引を含む)		作業療法科/3年	2022/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	白瀬雅登(実務経験あり)

授業の概要

講義や症例検討などを通して、神経筋疾患、神経変性疾患、内部障害、悪性腫瘍に対する基礎知識を身につけ、適切な評価及び治療法を理解する。

授業終了時の到達目標

作業療法士としての基本姿勢や治療の原則、及びリスク管理をふまえた上で、神経筋疾患、神経変性疾患、内部障害、悪性腫瘍等に対する評価、治療の選択ができる。

回	テーマ	内容
1	解剖生理学	循環、代謝、内分泌
2	解剖生理学	血液・免疫
3	治療の原則	ボディメカニクス
4	治療の原則	関節可動域、筋力
5	治療の原則	筋緊張
6	治療の原則	不随意運動、協調性
7	治療の原則	ギランバレー症候群
8	神経変性疾患	重症筋無力症、多発性硬化症
9	実践的知識の教授	
10	実践的知識の教授	
11	実践的知識の教授	
12	神経変性疾患	Parkinson病
13	神経変性疾患	Parkinson病
14	神経変性疾患	Parkinson病
15	神経変性疾患	小脳脊髄変性症

回	テ ー マ	内 容		
16	神経変性疾患	小脳脊髄変性症		
17	神経変性疾患	筋萎縮性側索硬化症		
18	神経変性疾患	筋萎縮性側索硬化症		
19	内部疾患	心疾患		
20	内部疾患	心疾患		
21	内部疾患	呼吸器疾患概要		
22	内部疾患	呼吸器疾患 (COPD)		
23	内部疾患	腎臓病		
24	吸引①	吸痰・吸引の基礎知識を身に着ける (リスク管理を中心に)		
25	吸引②	実技を通して、吸引の手順が理解できる		
26	内部障害	糖尿病		
27	内部障害	糖尿病		
28	悪性腫瘍	がん		
29	悪性腫瘍	ターミナルケア		
30	総括			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
能登真一ら(編集): 標準作業療法学 作業療法評価学 第3版 医学書院		期末試験 課題・レポート	50.0%	実習の際は、動きやすい服装で参加してください。
			50.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
身体障害治療学Ⅲ		作業療法科/4年	2022/通年	講義(一部、同時双方型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	木下・梶(実務経験あり)

授業の概要

呼吸器疾患、糖尿病、がん・難病患者における作業療法の治療概念を理解すること
【実務経験：病院勤務】

授業終了時の到達目標

1. 各疾患における作業療法実施時のリスクを説明することができる。
2. ICFを用いて、各疾患における作業療法の治療方針までの考え方を説明できる。
3. 各疾患における作業療法の治療に関する知識を説明できる。
4. 各疾患における作業療法の治療変化に対応できる考え方を説明できる。
5. 作業療法の治療方針についてチームで討論することができる。

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 身体機能作業療法の目的と方法、対象	
2	身体所見とリスク管理①	事例を通したリスク管理評価
3	身体所見とリスク管理②	
4	呼吸器疾患(COPD)概要と評価①	事例を通したCOPD評価
5	呼吸器疾患(COPD)概要と評価②	
6	呼吸器疾患の目標とプログラム	目標とプログラム
7	呼吸器疾患の目標とプログラム	
8	糖尿病の概要と評価	事例を通したDM評価
9	糖尿病の概要と評価	
10	糖尿病の目標とプログラム	目標とプログラム
11	糖尿病の目標とプログラム	
12	悪性腫瘍(がん)の概要と分類	事例を通したメタ評価
13	悪性腫瘍(がん)の概要と分類	
14	悪性腫瘍(がん) 目標とプログラム	目標とプログラム
15	悪性腫瘍(がん) 目標とプログラム	

回	テ ー マ	内 容		
16	パーキンソン病 概要と評価	事例を通したParkinson評価		
17	パーキンソン病 概要と評価			
18	パーキンソン病 目標とプログラム	目標とプログラム		
19	パーキンソン病 目標とプログラム			
20	脊髄小脳変性症 概要と評価	事例を通した脊髄小脳変性症評価		
21	脊髄小脳変性症 概要と評価			
22	脊髄小脳変性症 目標とプログラム	目標とプログラム		
23	脊髄小脳変性症 目標とプログラム			
24	筋萎縮性側索硬化症 概要と評価	事例を通した筋萎縮性側索硬化症評価		
25	筋萎縮性側索硬化症 概要と評価			
26	筋萎縮性側索硬化症 目標とプログラム	目標とプログラム		
27	筋萎縮性側索硬化症 目標とプログラム			
28	ケーススタディ	応用事例を通した一連の流れ		
29	ケーススタディ			
30	ケーススタディ			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学第3版 編集 山口 昇 玉垣 努		確認テスト	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
精神障害治療学Ⅰ（総論）		作業療法科/3年	2022/前期	講義 （一部同時双方向型遠隔授業）
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位（60時間）	必須	木下（実務経験あり）

授業の概要

1. 非構成的評価の仕方・記録法について学ぶ。
 2. 精神科領域における作業療法について学ぶ。
 3. 事例検討を通し、評価～治療までの臨床思考過程を学ぶ。
- 【実務経験】病院勤務

授業終了時の到達目標

1. 非構成的評価による評価結果を4条件に沿って吟味したり記述することができる。
2. 作業療法の治療構造や治療的な関わり方を理解する。
3. 評価から治療までの一連の流れを理解する。
4. 精神医学の知識に基づきながら作業療法の視点で考えることができる。
5. 事例のニーズを捉え、優先度を考えながら評価計画、目標設定、治療計画の立案ができる。

回	テーマ	内容
1	治療学概論①	治療構造、治療的態度
2	治療学概論②	作業療法士の役割
3	非構成的評価	4条件
4	4条件吟味法①	演習問題
5	4条件吟味法②	演習問題
6	4条件記述法①	演習問題
7	4条件記述法②	演習問題
8	作業療法の基本的な視点	作業療法における臨床思考過程
9	精神医療と精神科作業療法	我が国の精神保健医療の現状と課題
10	治療構造①	治療構造、治療的態度
11	治療構造②	作業活動の活用 集団・場の活用
12	治療・援助の場	精神科作業療法、外来作業療法 デイケア、精神療養病棟などの機能と役割
13	理論・実践モデル	理論と実践モデルとアプローチ
14	回復過程と作業療法①	統合失調症の回復モデル
15	回復過程と作業療法②	急性期・回復期

回	テ ー マ	内 容		
16	回復過程と作業療法③	維持期・地域移行支援（退院支援）		
17	回復過程と作業療法④	生活期（地域生活支援，復職・就労支援）		
18	医学的視点と作業療法①	統合失調症		
19	医学的視点と作業療法②	気分障害		
20	医学的視点と作業療法③	神経症性障害		
21	医学的視点と作業療法④	物質使用障害		
22	医学的視点と作業療法⑤	摂食障害		
23	医学的視点と作業療法⑥	成人の人格・行動の障害		
24	認知機能障害	認知機能リハビリテーション		
25	身体合併症	精神科における身体的アプローチ		
26	事例検討①	統合失調症，気分障害の事例		
27	事例検討②	評価内容		
28	事例検討③	全体像の把握，目標設定		
29	事例検討④	治療計画立案		
30	事例検討⑤	振り返りとまとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> ・長崎重信：精神障害作業療法学（ゴールド・マスター・テキスト），改訂3版，メジカルビュー社. ・新宮尚人：精神機能作業療法学，第3版，医学書院. ・上野 武治：精神医学（標準理学療法 		期末試験 課題・レポート 確認テスト	50.0% 35.0% 15.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
精神障害治療学Ⅱ		作業療法科/4年	2022/後期	講義 (一部、同時双方型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	木下(実務経験あり)

授業の概要

精神障害者の症状や回復状態、ライフステージに沿った作業療法の視点や役割について学習する。
国家試験で要される精神医学を含めた精神障害作業療法の知識を整理する。

【実務経験】病院勤務

授業終了時の到達目標

1. 精神科における作業療法の視点や役割、目的について理解し、説明できる。
2. 精神障害領域の作業療法の流れについて理解し、説明できる。

回	テーマ	内容
1	精神障害総論①	精神障害に対する作業療法の視点
2	精神障害総論②	精神領域で用いられる評価尺度
3	集団①	集団精神療法
4	集団②	集団作業療法
5	急性期作業療法	急性期の作業療法
6	統合失調症①	症状や行動特徴
7	統合失調症②	回復過程に応じた作業療法
8	統合失調症③	事例
9	気分障害①	症状や行動特徴
10	気分障害②	回復過程に応じた作業療法
11	気分障害③	事例
12	神経症、ストレス関連障害①	各疾患の特徴
13	神経症、ストレス関連障害②	各疾患に対する作業療法
14	神経症、ストレス関連障害③	事例
15	摂食障害①	疾患の特徴

回	テ ー マ	内 容		
16	摂食障害②	事例		
17	パーソナリティ障害①	疾患の特徴		
18	パーソナリティ障害②	各疾患に対する作業療法		
19	パーソナリティ障害③	事例		
20	認知症①	疾患の特徴		
21	認知症②	各疾患に対する作業療法		
22	認知症③	事例		
23	てんかん①	疾患の特徴		
24	てんかん②	事例		
25	アルコール依存症①	疾患の特徴		
26	アルコール依存症②	各疾患に対する作業療法		
27	アルコール依存症③	事例		
28	発達障害①	疾患の特徴		
29	発達障害②	各疾患に対する作業療法		
30	発達障害③	事例		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> ・長崎重信：作業療法ゴールドマスター・テキスト 精神障害作業療法学 改定第2版, 2015. ・新宮尚人：精神機能作業療法学 第3版, 2020. 		期末試験	100.0%	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて、国家試験対策本を持参してください。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
発達障害治療学		作業療法科/3年	2022/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	
授業の概要				
発達過程領域における対象疾患を知り、その疾病および障害の特徴について学ぶ。更に作業療法を提供するにあたり、作業療法評価、目標、治療計画について学ぶ。更に地域支援についても学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
疾患についての特徴を知り、その障害の問題点を理解する。 問題点を抽出するための評価方法を知る。 問題点を解決するための治療方法や治療計画を立てる知識を身につける。 医療—福祉—教育の連携やその分野での作業療法の支援や関りを知る。				
回	テーマ	内容		
1	発達過程作業療法の基礎知識	発達過程作業療法の歴史や理念を学ぶこと及び発達に障害がある子どもを評価—治療するために基礎知識を学ぶ。		
2	発達過程作業療法実践現場と実践課程	発達に障害がある子どもたちの作業療法の実践現場や実践する過程を学ぶ。		
3	発達過程作業療法の地域支援	病院から地域への流れについて学ぶ。地域支援システムや作業療法士の具体的なかかわりについて学ぶ。		
4	新生児に対する作業療法の実際	NICU対象児に対する作業療法の実際を学ぶ		
5	脳性麻痺に対する作業療法の実際①	脳性麻痺とは？臨床像の理解、医学的な治療について学ぶ		
6	脳性麻痺に対する作業療法の実際②	脳性麻痺の作業療法評価から治療までを学ぶ		
7	知的能力障害に対する作業療法の実際	知的能力障害の定義、分類、原因、臨床像を知り、医学的治療、作業療法評価—治療までを学ぶ		
8	神経発達症の作業療法の実際①	神経発達症とは？神経発達症群の臨床像		
9	神経発達症の作業療法の実際②	神経発達症群の医学的治療、作業療法評価—治療		
10	重症心身障害児(者)の作業療法の実際	重症心身障害児の臨床像、作業療法評価—治療		
11	強度行動障害の作業療法の実際	強度行動障害の臨床像、作業療法評価—治療		
12	筋ジストロフィーの作業療法の実際	筋ジストロフィーの臨床像、作業療法評価—治療		
13	骨系統疾患の作業療法の実際	骨系統疾患の臨床像、作業療法評価—治療		
14	二分脊椎症の作業療法の実際	二分脊椎症の臨床像、作業療法評価—治療		
15	まとめ	発達過程作業療法のまとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
加藤寿宏編集：標準作業療法学 発達糧作業療法学第3版		期末試験 課題・レポート	80.0% 20.0%	

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
高次脳機能障害治療学 I (総論)		作業療法科/3年	2022/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	
授業の概要				
プログラム立案のポイント				
授業終了時の到達目標				
実習での評価・目標設定・プログラム立案の基礎を身に着ける				
回	テーマ	内容		
1	総論	脳の機能局在		
2	復習	小テスト		
3	注意・情動・半側空間無視	小テスト		
4	意識障害	事例		
5	記憶障害			
6	動画	記録21種類		
7	失認			
8	失行			
9	失語			
10	着衣障害	グループ発表		
11	実技試験対策	評価練習		
12	実技試験	評価OSCE		
13	実技試験	評価OSCE		
14	失行	観念運動失行		
15	期末試験対策			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
能登真一編集 高次脳機能作業療法学 医学書院		課題・レポート 期末試験	40.0% 60.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
高次脳機能障害治療学Ⅱ		作業療法科/4年	2022/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	梶(実務経験あり)
授業の概要				
高次脳機能障害評価⇒治療プログラム立案⇒治療・支援実施⇒最終評価の流れを理解する 【実務経験：病院勤務】				
授業終了時の到達目標				
生活に密着した治療プログラムを作成することができる				
回	テーマ	内容		
1	高次脳機能障害復習	分類及び症状と脳局在		
2	記憶障害・検査法の復習	三宅式記憶力検査/Reyの複雑図形検査/ペントン視覚記憶検査①記憶と想起②エピソード記憶③展望記憶 リバーミッド/ウェクスラー記憶検査		
3	記憶障害・治療的訓練	単純反復訓練の効果、記憶スパンの拡張訓練、記憶術の適用、エラーレス学習、外的記憶補助具の利用訓練、スキル学習		
4	注意障害・検査法の復習	①CAT②TMT③かな拾いテスト④転換性注意など⑤持続性注意など		
5	注意障害・治療的訓練	注意の全般的訓練、注意の要素の特異的訓練、目標志向型注意訓練		
6	半側空間無視	①SIASの視空間認知検査②お金のチップを用いた試験③文字チップを用いた読みの訓練④BIT⇒左(右)を見る事の促し、視覚的走査の訓練、視覚的手掛かりを与えることの意味、全般性注意の促進、左手の使用、体性感覚の利用、単眼遮断および半視野遮蔽、プリズム眼鏡		
7	遂行機能障害	①BADS②ハノイの塔③スケジュールノート④発散的思考⑤収束的思考⑥計画的・総合的思考⑦習慣的反応の抑制⑧stroop test⇒		
8	視覚性認知の障害	単純反復訓練の効果、フラッシュカード訓練及びMOR法、要素的視覚障害への対処、視覚的特徴への注意の喚起、てがかりを使った認知学習、代償的方法の導入		
9	空間関係の認知と操作の障害	視空間知覚の自然回復、視空間性定位のための練習、地誌的障害(道順障害)への対処、構成障害が生み出す問題への対処、心像の問題、関係を表す言葉の理解の障害への対処		
10	読み・書字・計算の障害	読字障害の治療的訓練、書字障害の治療的訓練、数処理計算障害の治療的訓練、計量器使用の障害の治療的訓練		
11	失行症	治療的訓練の効果の検討、指示様式の違いによる効果の検討、事例研究と事例報告		
12	失語症	①読解力の訓練②自書字の訓練③コミュニケーション能力改善の訓練⇒実用的コミュニケーション回復のための援助、心理社会面の援助		
13	身体意識の障害	非半身性身体意識障害の場合、半身性身体意識障害の場合		
14	障害の無自覚	①一般的な知識の獲得②自分の高次脳機能障害への自覚③影響の自覚		
15	地域・就労支援	回復期リハビリ棟チームアプローチ・薬物療法・地域包括支援・一般就労と就労移行支援及び就労継続支援		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
高次脳機能障害学 第2版 石合純夫 医歯薬出版 神経内科学 第4版 川平和美 医学書院 病気がみえる vol.17 脳・神経 医療情報科学研究所		授業態度 期末試験	10.0% 90.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
高齢期障害治療学		作業療法科/3年	2022/前期	講義 (一部同時双方向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	丁子(実務経験あり)

授業の概要

高齢期領域の作業療法に必要な、高齢者の社会的背景や心身機能の特徴を知り、介護予防に資する作業療法支援や、認知症に対する作業療法支援について学ぶ。

【実務経験】病院勤務

授業終了時の到達目標

1. 我が国における高齢者の社会的背景と個人の生活歴の分析方法がわかる。
2. 心身機能の老化について説明できる。
3. 高齢者における、生涯発達を前提とした作業療法支援について概要を説明できる。
4. 各種認知症の症状や、作業療法支援を説明できる。

回	テーマ	内容
1	高齢期作業療法の基礎	高齢社会、高齢者の課題、社会制度
2		高齢期の身体的特徴、おこりやすい症候
3		高齢期に多い疾患(循環、呼吸、神経、内部、運動器、皮膚)
4	高齢期作業療法の実践	評価、目標設定、治療・援助計画および実施、リスク管理
5		病気に応じた治療・援助内容の違い
6	一般高齢者の作業療法	虚弱高齢者のケース①
7		虚弱高齢者のケース②
8		寝たきり高齢者のケース①
9		寝たきり高齢者のケース②
10	介護者へのサポート	
11	高齢期の心理・精神的特徴	知能、記憶、学習、感情、情緒、人格特性
12	高齢期の精神系疾患	せん妄、幻覚妄想状態、うつ病、神経症、人格障害
13	認知症高齢者に対する作業療法	認知症の分類と特徴
14		中核症状と周辺症状
15		評価とその目的

回	テーマ	内容		
16		評価演習 (MMSE, HDS-Rなど)		
17		アクティビティと活動形態		
18		重度の認知症高齢者のケース		
19		中等度の認知症高齢者のケース		
20		重度の認知症から寝たきりに移行したケース		
21	高齢者への身体アプローチ①	模擬事例①		
22	高齢者への身体アプローチ②	模擬事例②		
23	高齢者への身体アプローチ③	模擬事例③		
24	高齢者への身体アプローチ④	模擬事例④		
25	病院での高齢者支援の実際①	病院の実例①		
26	病院での高齢者支援の実際②	病院の実例②		
27	施設での高齢者支援の実際①	施設での実例①		
28	施設での高齢者支援の実際②	施設での実例②		
29	在宅での高齢者支援の実際①	在宅での実例①		
30	まとめ			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
松房ら編:標準作業療法学, 高齢期作業療法 [第3版], 医学書院		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
福祉住環境論		作業療法科/2年	2022/後期	講義(一部、同時双方向型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	梶 直美(実務経験あり)
授業の概要				
福祉住環境コーディネーター検定試験2級合格レベルまでの知識を身に着ける【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
福祉住環境コーディネーター検定試験2級合格				
回	テーマ	内 容		
1	第1章	確認問題とテキスト確認		
2	第1章	確認問題とテキスト確認		
3	第2章	確認問題とテキスト確認		
4	第2章	確認問題とテキスト確認		
5	第3章	確認問題とテキスト確認		
6	第3章	確認問題とテキスト確認		
7	第4章	確認問題とテキスト確認		
8	第4章	確認問題とテキスト確認		
9	第5章	確認問題とテキスト確認		
10	第5章	確認問題とテキスト確認		
11	第6章	確認問題とテキスト確認		
12	第6章	確認問題とテキスト確認		
13	過去問	試験・解答・解説		
14	過去問	試験・解答・解説		
15	過去問	試験・解答・解説		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
東京商工会議所編 福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト 福祉住環境コーディネーター2級短期合格テキスト		期末試験	100.0%	検定試験に不合格の場合は、レポート課題

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
地域作業療法論		作業療法科/3年	2022/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	梶(実務経験あり)
授業の概要				
地域作業療法の基盤と背景を知り、医学モデルと生活モデルの違いを理解する。				
授業終了時の到達目標				
生活モデルがICFと共通した考えをもつことと「活動の重要性」を再認識する。 生活行為向上マネジメントを深く学ぶことにより、作業療法アセスメントとプログラム立案技術を身に着ける。				
回	テーマ	内容		
1	第1章 地域作業療法の基盤と背景	地域を知る		
2		地域リハビリテーションの流れをとらえる		
3		地域作業療法を考察する		
4	第2章 地域作業療法を支える制度・社会生活支援・連携	制度・施策とのつながりを知る		
5		社会生活支援を理解する		
6		多職種の連携と協働を理解する		
7	第3章 地域作業療法の実践	地域作業療法の枠組みを理解する		
8		住環境と地域づくりを考察する		
9		支援プログラムとマネジメントを学ぶ		
10		地域作業療法の実践の場を知る		
11	第4章 実践事例	病院(身体機能領域)		
12		病院(精神機能領域)		
13		診療所(クリニック)		
14		介護老人保健施設		
15		通所介護施設(デイサービスセンター)		

回	テ ー マ	内 容		
16		通所リハビリテーション（デイケアセンター）		
17		訪問作業療法		
18		地域包括支援センター		
19		介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）		
20		発達支援		
21		教員		
22		地域生活移行		
23		認知症支援		
24		在宅（終末期）		
25	支援プログラムとマネジメントを学ぶ	MTDLP①		
26		MTDLP②		
27		MTDLP③		
28		MTDLP④		
29		MTDLP⑤		
30		MTDLP⑥		
	教科書・教材	評価基準	評価率	その他
	大熊明編集 地域作業療法学第3版 医学書院	課題・レポート 確認テスト	80.0% 20.0%	

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
職業関連活動学（就労支援）		作業療法科/3年	2022/前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	梶（実務経験あり）
授業の概要				
就労支援の実践事例を通して地域で働く作業療法士の役割りと内容を理解する				
授業終了時の到達目標				
就労支援に必要な作業療法士の役割りと必要な支援を説明できる				
回	テーマ	内容		
1	総論	作業療法士の就労支援		
2		多様な働き方		
3		障害者雇用（企業就労）		
4	就労評価	就労の評価とは		
5		レディネステスト		
6		GATB		
7		ワークサンプル法		
8		モダプツ法		
9		性格検査		
10	各論	就学・復学支援		
11		高次脳機能障害		
12		精神機能障害		
13	マネジメント	MTDLP		
14		MTDLP		
15		MTDLP		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
長崎重信監修 ゴールドマスター作業療法概論第3版 メジカルビュー社 大熊明編集 地域作業療法学第3版 医学書院 能登真一編集 作業療法評価学第3版 医学書院		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
臨床見学実習Ⅰ		作業療法科/1年	2022/後期	実習(一部学内実習)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
		1単位(40時間)	必須	中川・丁子・梶・白瀬・木下 (実務経験有)
授業の概要				
<p>病院にて、見学実習を3日間行い、その前後に学校で2日分の課題を行う。</p> <p>①作業療法士になることへの自己動機を確認する。②これまで学習したことの意義を理解し、今後の学習意欲の向上を行う。③社会人、医療従事者としての責任的行動の遂行を心掛ける。④病院における作業療法部門の位置づけを理解する。⑤作業療法士の業務の内容を把握する。⑥患者や利用者とのとの関わり方についてイメージを持つ。【実務経験】病院勤務</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>①病院のスケジュールに従って行動することができる。学生は施設の規則を遵守し、職員・患者に対する礼儀をわきまえ、見学担当者の指示に従うことができる。②職員・患者に対して社会人として相応しいコミュニケーション(適切な挨拶・言葉遣い等)がとれる。③学生間や患者との不用意な会話は慎むことができる。また、患者について知り得た情報の守秘義務を守ることができる。</p>				
回	テーマ	内容		
1				
2				
3		令和5年3月頃から1週間(40時間)の予定		
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		課題レポート、デイリーノートの提出、出欠、実習態度、等により評定。	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
臨床見学実習Ⅱ		作業療法科/2年	2022/前期	実習(一部学内実習)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
		1単位(40時間)	必須	梶・木下・丁子・中川・白瀬 (実務経験有)
授業の概要				
臨床実習として現場に赴き、臨床場面の実態を知り、作業療法士の仕事内容を理解する。 施設・病院等で実習を行う。【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・作業療法の一連の流れを見学し、作業療法士の業務内容の理解を深める。 ・対象者のリスク管理を守れる ・指導者と対象者と適切な関係がとれる。 				
回	テーマ	内容		
1	令和4年8月頃より病院・施設での実習予定			
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		実習・実技評価 授業態度 課題・レポート	50.0% 30.0% 20.0%	180時間の実習時間を設ける(4単位)

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
地域作業療法実習		作業療法科/4年	2023/通年	実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
		1単位(40時間)	必須	中川・梶・白瀬・他(実務経験有り)

授業の概要

本講義では、地域リハビリテーションの目標と地域での役割を理解し、地域在住障がい者の生活特性と問題点を見学実習する。地域作業療法の指導・援助・技術が説明できるようになることを目指す。

授業終了時の到達目標

1. 地域における作業療法支援について概要を説明できる。
2. 模擬事例に対して評価、解釈ができる。

回	テーマ	内容		
1		令和5年5月ごろより実習予定(40時間)		
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
適宜、自習に活用すること		課題レポート、デイリーノートの提出、出欠、実習態度、等により総合判定。		

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
評価学実習ゼミ		作業療法科/2年	2022/後期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	梶・中川・他(実務経験有)
授業の概要				
評価実習に必要な評価方法の復習【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
評価実習に必要な評価方法を身に着ける				
回	テーマ	内容		
1	総論			
2	上肢機能検査	STEF(モダプツ法) STEF練習		
3	評価用紙に使い方	評価用紙説明、評価内容説明		
4	脳卒中評価	MFT脳卒中上肢機能検査 BRS. test StageIV・V		
5	スクリーニング	感覚検査・高次脳スクリーニング・ピンチ握力テスト、N式 評価尺度		
6	聴講	聴講(臨床評価実習3年生発表)		
7	聴講	聴講(臨床評価実習4年生発表)		
8	心理社会的モデル	COPM、人間作業モデル		
9	実技試験	STEF実技試験		
10	実技試験	STEF実技試験		
11	事例検討	身体機能 事例検討		
12	事例検討	精神機能 事例検討		
13	事例検討	高齢期 事例検討		
14	アセスメント表作成	ICF		
15	アセスメント表作成	MTDLP		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
作業療法評価学 医学書院		実習・実技評価 課題・レポート 実習・実技評価 課題・レポート 確認テスト	100.0% 10.0% 40.0% 10.0% 10.0%	STEF30点、聴講 シート10点、個人 レポート10点、グ ループレポート10 点、ROM/MMT実技40 点

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
臨床実習Ⅰゼミ		作業療法科/3年	2023/通年	講義(一部、同時双方型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	中川・梶・他(実務経験有り)
授業の概要				
本授業では、これまでに学んだ全分野に関して、講義と演習、確認テストを通じて、基礎的知識の確認を行う。				
授業終了時の到達目標				
作業療法を実施する上での基礎知識(解剖・運動学・生理学など)と技術の確認を行い、基礎的臨床能力を身につける。				
回	テーマ	内容		
1	解剖学	総論		
2	解剖学	関節・筋(上肢 下肢)		
3	解剖学	関節・筋(顔面・体幹)		
4	解剖学	触診(上肢・体幹・下肢)		
5	運動学	運動器の構造		
6	運動学	四肢の運動		
7	運動学	体幹の運動		
8	運動学	姿勢		
9	運動学	歩行		
10	運動学	運動学習		
11	生理学	総論		
12	生理学	神経 感覚		
13	生理学	発声・構音・音声		
14	生理学	呼吸 循環		
15	人間発達学①	発達段階(0から6歳)		
16	人間発達学②	思春期と高齢期		
17	小児科学①	新生児と未熟児		
18	小児科学②	免疫・アレルギー疾患		
19	整形外科学①	外傷疾患		
20	整形外科学②	変形性疾患		
21	臨床心理学①	こころの変化		
22	臨床心理学②	カウンセリング技法		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		期末試験		

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
臨床実習Ⅱゼミ		作業療法科/4年	2023/通年	講義(一部、同時双方型遠隔授業)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	中川・梶・他(実務経験有り)
授業の概要				
演習Ⅰゼミで学んだ全分野に関して、演習、確認テスト、ならび臨床応用を確認する				
授業終了時の到達目標				
作業療法を実施する上での基礎知識(解剖・運動学・生理学など)と技術の確認を行い、実際の臨床能力を身につける。				
回	テーマ	内容		
1	解剖学	総論		
2	解剖学	関節・筋(上肢 下肢)		
3	解剖学	関節・筋(顔面・体幹)		
4	解剖学	触診(上肢・体幹・下肢)		
5	運動学	運動器の構造		
6	運動学	四肢の運動		
7	運動学	体幹の運動		
8	運動学	姿勢		
9	運動学	歩行		
10	運動学	運動学習		
11	生理学	総論		
12	生理学	神経 感覚		
13	生理学	発声・構音・音声		
14	生理学	呼吸 循環		
15	人間発達学①	発達段階(0から6歳)		
16	人間発達学②	思春期と高齢期		
17	小児科学①	新生児と未熟児		
18	小児科学②	免疫・アレルギー疾患		
19	整形外科学①	外傷疾患		
20	整形外科学②	変形性疾患		
21	臨床心理学①	こころの変化		
22	臨床心理学②	カウンセリング技法		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		レポート課題 授業態度・貢献度		

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
評価実習 I		作業療法科/2年	2021/後期	実習 (一部学内実習)
授業時間	回数	単位数 (時間数)	必須・選択	担当教員
		2単位 (80時間)	必須	梶・木下・丁子・中川・白瀬 (実務経験有)
授業の概要				
臨床実習として現場に赴き、臨床場面の実態を知り評価を体験することにより、評価測定の方法や意味を理解する。 施設・病院等で評価実習を行う。【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・作業療法の一連の流れと評価実技を経験し、作業療法士としての仕事内容の理解を深める。 ・対象者のリスク管理を守れる ・指導者と対象者と適切な関係がとれる。 				
回	テーマ	内容		
1	令和3年1月頃より実習 (80時間)			
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		実習・実技評価 授業態度 課題・レポート	50.0% 30.0% 20.0%	180時間の実習時間を設ける (4単位)

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
評価実習Ⅱ		作業療法科/3年	2022/後期	実習(一部、学内実習)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
		4単位(160時間)	必須	白瀬・木下・丁子・中川・梶 (実務経験有)
授業の概要				
臨床実習として現場に赴き、臨床場面の実態を知り、専門家としての心構えと基本的なスキルの獲得を目指す。 施設・診療所・病院等で実習を行う。				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・作業療法の一連の流れのうち、評価から治療計画の立案までを経験し、理解を深める。 ・対象者のリスク管理を守れる ・指導者と対象者と適切な関係がとれる。 				
回	テーマ	内 容		
1	令和4年10月頃より実習(160時間)の予定			
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		実習・実技評価 授業態度 課題・レポート	50.0% 30.0% 20.0%	180時間の実習時間を設ける(4単位)

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
臨床実習 I		作業療法科/3年	2022/後期	実習 (一部学内実習)
授業時間	回数	単位数 (時間数)	必須・選択	担当教員
		7単位 (280時間)	必須	白瀬・木下・丁子・中川・梶 (実務経験有)
授業の概要				
<p>評価実習に引き続き、臨床場面の実態を知り、専門家としての心構えと基本的なスキルの獲得を目指す。</p> <p>また、作業療法の評価・治療までの一連の流れを経験できる。</p> <p>施設・診療所・病院等で実習を行う。【実務経験】病院勤務</p>				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・作業療法の一連の流れのうち、評価から治療の実施までを経験し、理解を深める。 ・対象者のリスク管理を守れる。 ・指導者と対象者と適切な関係がとれる。 				
回	テーマ	内容		
1	令和4年10月ごろより病院・施設実習 (180時間)			
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		実習・実技評価 授業態度 課題・レポート	50.0% 30.0% 20.0%	315時間の実習時間を設ける (7単位)

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
臨床実習Ⅱ		作業療法科/4年	2022/前期	実習 (一部、学内実習)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
		7単位(280時間)	必須	丁子、木下、中川、梶、白瀬 (実務経験有)
授業の概要				
臨床実習Ⅰならび評価実習の成果を踏まえ、作業療法の評価から治療計画の立案、治療計画の実施、再評価の一連の流れを経験することで、知識と技術を習得することを目指す。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・作業療法の一連の流れのうち、評価から再評価までを経験し、理解を深める。 ・対象者のリスク管理を守れる。 ・指導者や対象者と適切な関係をとれる。 				
回	テーマ	内 容		
1	令和5年5月ごろより実習(280時間)の予定			
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
158				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		実習・実技評価 授業態度 課題・レポート	50.0% 30.0% 20.0%	315時間の実習時間を設ける(7単位)